

分布調査報告書(22)

1995

山形県教育委員会

分布調査報告書(22)

平成 6 年度 以降 農林 土木 事業 他 関係 遺跡
東北 横断 自動車道 酒田 線 関係 遺跡

平成 7 年 3 月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成6年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

開発事業は近年増加しており、地下に埋もれた埋蔵文化財と私たちの関わりもまた増加する傾向にあります。

埋蔵文化財は、本来地域に密着したもので、ふるさと山形の文化の原点ともいえる貴重な遺産であり、私たちは、先人たちが育んできたこの遺産を大切に保護し、後世の人々に伝えてゆく責務をもっています。同時に「未来に向けて発展する豊かな県土づくり」を目的とした各種の開発事業は県民のうるおいある豊かな生活環境づくりのための重要な事業です。

こうしたことから、山形県教育委員会では、地域文化の継承・保存と地域社会の整備との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けてゆく所存です。

最後になりましたが、調査に際しましてご協力をいただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成7年3月

山形県教育委員会

教育長 佐藤 進

例　　言

- 1 本書は、平成6年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成6年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査および報告書の作成および編集は、山形県教育庁文化財課の長橋　至・渋谷孝雄・名和達朗の3名が担当した。
- 3 第I章に遺跡一覧、第II章に個々の遺跡の内容を記した。新規発見遺跡・抹消遺跡・範囲・位置・名称の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一である。各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。ただし、第II章2以下については、これをさらに縮小して使用した。第II章1の遺跡地名表の番号は当該事業内の遺跡位置図中の番号と一致する。
挿図および文中の記号は、黒丸・T（トレント）・TT（テストトレント）TP（テストピット＝ 1×1 mの試掘区）は試掘地点、赤色部分は遺構・遺物検出地点、遺跡位置図中の赤色部分は遺跡範囲、RP－土器・ST－竪穴住居跡・SE－井戸跡・SK－土壙・SD－溝跡・SP・EP－柱穴・SX－性格不明遺構・SG－旧河川跡を示す。
図版の遺物は2分の1・3分の1を基本とした。
- 5 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会および地元関係者のご協力を得た。記して謝意を表する。

目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1. 調査の目的、方法	1
2. 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 遺跡地名表	
(1)県農林事業関係遺跡	4
(2)県土木事業関係遺跡	8
(3)産振校舎改築等整備事業関係遺跡	16
(4)派出所・駐在所新築事業関係遺跡	16
(5)建設省赤川放水路拡幅工事関係遺跡	16
(6)悠想の丘整備事業関係遺跡	18
(7)東北電力山形幹線新設工事関係遺跡	18
2 試掘調査の概要	
(1)柳久瀬A遺跡	20
(2)向田・門出遺跡	22
(3)鶴田野2・3遺跡	24
(4)尼子岩陰東地区	26
(5)渡戸遺跡	28
(6)落合遺跡	30
(7)荒川・荒川2遺跡	32
(8)下柳A遺跡	34
(9)清水脇2遺跡	38
(10)土崎遺跡	40
(11)梵天塚遺跡	42
(12)中谷地遺跡	44
(13)三条遺跡	46
(14)落衣長者屋敷遺跡	48
(15)高松II遺跡	50
(16)高松III遺跡	52
(17)平野山古窯跡群第12地点遺跡	54
(18)脚躅山遺跡	56
(19)富山遺跡	58
3 記録保存調査・立会い調査の概要	
(1)大坪遺跡	60
(2)上高田遺跡・木戸下遺跡	62
(3)古屋敷遺跡	65
(4)北目長田・地蔵田・権待・堂田遺跡	68
(5)家根合遺跡	71
(6)塔の腰遺跡	74
(7)上荒谷遺跡	77
(8)大浦b遺跡	80
(9)黒藤館跡	86
(10)八幡2遺跡	89
(11)獅子岩城跡	92
(12)岡村遺跡	94

(13) 深原遺跡	96
(14) 亀ヶ崎城跡	99
III まとめ	
1 新規発見遺跡	102
2 範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡	102
表-1 平成6年度分布調査遺跡一覧	2
表-2 調査工程表	3
表-3 掘載遺跡位置図(2万5千分の1)索引	103

挿図目次

第1図 県農林事業関係遺跡位置図(1)	4
第2図 県農林事業関係遺跡位置図(2)	5
第3図 県土木事業関係遺跡位置図(1)	10
第4図 県土木事業関係遺跡位置図(2)	11
第5図 上谷地c遺跡位置図	16
第6図 渋作遺跡位置図	16
第7図 黒森遺跡位置図	16
第8図 石コロ遺跡位置図	18
第9図 東北電力山形幹線新設工事関係遺跡位置図	18
第10図 柳久瀬A遺跡概要図	20
第11図 向田遺跡概要図	22
第12図 鶴田野2・3遺跡概要図	24
第13図 尼子岩陰東地区概要図	26
第14図 渡戸遺跡概要図	28
第15図 落合遺跡概要図	30
第16図 荒川遺跡・荒川2遺跡概要図	32
第17図 下柳A遺跡概要図	35
第18図 清水脇2遺跡概要図	38
第19図 土崎遺跡概要図	40
第20図 梵天塚遺跡概要図	42
第21図 中谷地遺跡概要図	44
第22図 三条遺跡概要図	46
第23図 落衣長者屋敷遺跡概要図	48
第24図 高松II遺跡概要図	50
第25図 高松III遺跡概要図	52
第26図 平野山古窯跡群第12地点遺跡概要図	54
第27図 鹿躑躅山遺跡概要図	56
第28図 富山遺跡概要図	58
第29図 大坪遺跡概要図・検出遺構	60
第30図 上高田遺跡・木戸下遺跡検出遺構	62
第31図 上高田遺跡・木戸下遺跡概要図	63
第32図 古屋敷遺跡概要図	65
第33図 古屋敷遺跡検出遺構	66
第34図 北目長田・地蔵田・権待・堂田遺跡概要図	69
第35図 家根合遺跡概要図	71

第36図	家根合遺跡検出構造	72
第37図	塔の腰遺跡検出構造	74
第38図	塔の腰遺跡概要図	75
第39図	上荒谷遺跡概要図	77
第40図	上荒谷遺跡検出構造	78
第41図	大浦 b 遺跡概要図	81
第42図	大浦 b 遺跡検出構造(1)	81
第43図	大浦 b 遺跡検出構造(2)	83
第44図	大浦 b 遺跡検出構造(3)	83
第45図	黒藤館跡概要図	86
第46図	黒藤館跡検出構造	87
第47図	八幡 2 遺跡概要図	89
第48図	八幡 2 遺跡検出構造	90
第49図	獅子岩城跡概要図	92
第50図	獅子岩城跡検出構造	93
第51図	岡村遺跡概要図	94
第52図	岡村遺跡検出構造	95
第53図	漆原遺跡概要図	96
第54図	漆原遺跡検出構造	97
第55図	亀ヶ崎城跡概要図	99
第56図	亀ヶ崎城跡検出構造	100

図版目次

図版 1	県農林事業関係遺跡(1)	5
図版 2	県農林事業関係遺跡(2)	6
図版 3	県農林事業関係遺跡(3)	7
図版 4	県土木事業関係遺跡(1)	12
図版 5	県土木事業関係遺跡(2)	13
図版 6	県土木事業関係遺跡(3)	14
図版 7	県土木事業関係遺跡(4)	15
図版 8	上谷地 c 遺跡	16
図版 9	渋作遺跡	16
図版10	黒藤館跡	16
図版11	石コロ遺跡	19
図版12	東北電力山形幹線新設工事関係遺跡	19
図版13	柳久瀬A遺跡	21
図版14	向田遺跡	23
図版15	鶴田野 2・3 遺跡	25
図版16	尼子岩陰東地区	27
図版17	渡戸遺跡	29
図版18	落合遺跡	31
図版19	荒川・荒川 2 遺跡	33
図版20	下柳 A 遺跡(1)	36
図版21	下柳 A 遺跡(2)	37
図版22	清水脇 2 遺跡	39
図版23	土崎遺跡	41

図版24	梵天塚遺跡	43
図版25	中谷地遺跡	45
図版26	三条遺跡	47
図版27	落衣長者屋敷遺跡	49
図版28	高松II遺跡	51
図版29	高松III遺跡	53
図版30	平野山古窯跡群第12地点遺跡	55
図版31	鷺獨山遺跡	57
図版32	富山遺跡	59
図版33	大坪遺跡	61
図版34	上高田遺跡・木戸下遺跡	64
図版35	古屋敷遺跡	67
図版36	北目長田・地蔵田・樅持・堂田遺跡	70
図版37	家根合遺跡	73
図版38	塔の腰遺跡	76
図版39	上荒谷遺跡	79
図版40	大浦 b 遺跡(1)	84
図版41	大浦 b 遺跡(2)	85
図版42	黒藤館跡	88
図版43	八幡 2 遺跡	91
図版44	獅子岩城跡	93
図版45	岡村遺跡	95
図版46	漆原遺跡	98
図版47	亀ヶ崎城跡	101

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成7年度以降に実施予定となる開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的として実施した。調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A調査(現地確認調査・表面踏査)

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査(試掘調査)

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとて遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査(記録保存のための発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

(5) 埋蔵文化財包蔵地基礎調査

「山形県遺跡地図」(昭和53年版)に登録された遺跡、及びその後に発見・登録された遺跡の内容の補筆を行い、合わせて、遺跡の有無を確認し、将来の各種開発計画に備えることを目的とする調査。調査方法は表面踏査である。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年6～7月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月中旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討している。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も隨時行っている。今年度の調査は、平成6年4月から平成7年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はIII章に示した。

表一 平成6年度分布調査遺跡一覧(1)

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
1 県営ほ場整備事業	月光川上流地区	大坪遺跡	○				
	月光川下流地区	上高田遺跡	○				
	高瀬川地区	古里敷遺跡	○				
	高瀬川地区	木戸下遺跡	○				
	高瀬川地区	穂待遺跡	○				
	高瀬川地区	穂堂田遺跡	○				
	柳久瀬地区	地蔵田遺跡	○				
	柳久瀬地区	北目長田遺跡	○				
	西荒瀬地区	柳久瀬A遺跡	○				
	鶴田野地区	門出遺跡	○				
	鶴田野地区	向田遺跡	○				
	鶴田野地区	鶴田野2遺跡	○				
	鶴田野地区	鶴田野3遺跡	○				
2 県営かん排事業	洗沢川地区	下山遺跡	○				
3 県営水田活性化基盤整備事業	東荒川地区	二本松遺跡	○				
4 中山間水田活性化総合整備事業	尼子岩陰東地区	○					
5 一般農道整備事業	余目南部2期	家根合遺跡	○				
6 広域農道整備事業	村山東部地区	渡戸遺跡	○				
7 農免農道整備事業	鷹山地区	村松遺跡	○				
8 ふるさと農道緊急整備事業	拌見地区	落合遺跡	○				
	〃	元木遺跡	○				
	博石地区	黒木沢A遺跡	○				
9 源流の森整備事業	須郷地区	細越遺跡	○				
10 国道345号道路改良	鶴岡市高坂地内	天王原遺跡	○				
	鶴岡市井岡地内	塔の腰遺跡	○				
	鶴岡市坂野下地内	坂野下遺跡	○				
	米沢市塩町地内	荒川遺跡	○				
11	主要地方道天童中山大江線	天童市荒谷地内	上荒谷遺跡	○			
	主要地方道寒河江西川線	寒河江市落衣地内	落衣長者屋敷遺跡	○			
一般県道東根長島線	村山市道六地内	西原C遺跡	○				
一般県道中島新田橋岡線	宮根市堂の前地内	堂の前遺跡	○				
一般県道砂子沢小又釜瀬T線	真室川町三瀬地内	三瀬遺跡	○				
〃	〃	三瀬2遺跡	○				
〃	〃	三瀬3遺跡	○				
主要地方道真室川鮎川線	真室川町及位地内	大瀬上野遺跡	○				
主要地方道新庄舟形線	新庄村本吉地内	本合海上野遺跡	○				
主要地方道米沢猪苗代線	米沢市市布地内	水上沢武山遺跡	○				
〃	米沢市坂下地内	坂下遺跡	○				
主要地方道南陽川西線	南陽市露橋地区	露橋B館遺跡	○				
一般県道米沢浅川高畠線	米沢市中町地区	大浦b遺跡	○				
〃	〃	大浦c遺跡	○				
一般県道梨郷赤湯停車場線	南陽市高梨地内	六角壇遺跡	○				
主要地方道南陽白鷹線	白鷹町畔藤地内	黒藤館遺跡	○				
主要地方道川西小国線	小国町大流地内	の原遺跡	○				
主要地方道長井飯豊線	飯豊町小白川地内	長者屋敷遺跡	○				
主要地方道山形白鷹線	白旗町萩野地内	八幡2遺跡	○				
主要地方道長井白鷹線	白鷹町山口地内	八幡2遺跡	○				

表一 1 平成6年度分布調査遺跡一覧(2)

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
12	仮称 健康の森整備事業	山形市青柳地区	下柳A遺跡		○		
13	川前急傾斜地崩壊対策事業	大石田町川前地区	川前幅跡	○			
14	一般国道13号山形北バイパス 赤川放水路拡幅事業	村山市土生田 酒田市黒森	清水脇2遺跡 黒森遺跡		○		
15	東北横断自動車道酒田線建設	櫛引工事区 酒田北工事区 寒河江工事区	獅子岩城 岡村遺跡 漆原遺跡 土崎遺跡 梵天塚遺跡 中谷地遺跡 三絆遺跡 落衣長者屋敷遺跡 高松II遺跡 高松III遺跡 平野山古窯跡群 藤陽山遺跡 富山遺跡		○	○	○
16	悠想の丘整備事業	山形市桜田地区	石コロ遺跡	○			
17	産振校舎新築・グランド工事 県立酒田東高校体育館改築工事 県立鶴岡新高校用地造成等工事	米沢八幡原地内 酒田市亀ヶ崎地内 鶴岡市大宝寺地内	上谷地c遺跡 亀ヶ崎城 日本国遺跡		○		○
18	南陽警察署高畠警察官派出所	高畠町泉岡地内	浅作遺跡	○	○		
19	仮称 県立保険医療短期大学	山形市青柳地内	下柳A遺跡		○		
20	東北電力山形幹線新設工事 酒田線建設	寒河江市田代地内 西川町熊野地内	田代水上遺跡 熊野橋跡	○			

本表には、本報告書に掲載した遺跡を記載している。
事業の地区外等の遺跡は新規発見の他は未掲載としている。

表二 調査工程表

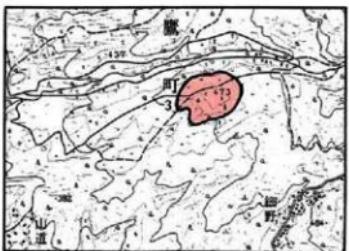
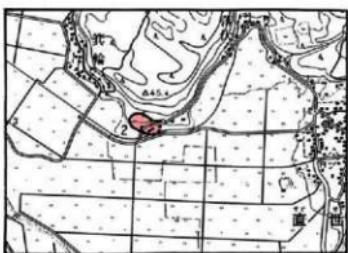
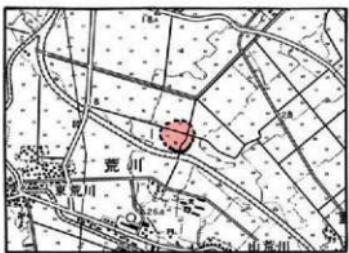
調査区分	平成6年										平成7年 1~3月
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
平成6年度以降 県農林土木事業他 立会	A	—	—	—	—	—	—	—	—		
	B	—	—	—	—	—	—	—	—		
	立会	—	—	—	—	—	—	—	—		
東北横断自動車道 酒田線建設	B	—	—	—	—	—	—	—	—		
	立会	—	—	—	—	—	—	—	—		
建設省・東北電力等	A	—	—	—	—	—	—	—	—		
	B	—	—	—	—	—	—	—	—		
整理・報告書作成											

II 調査の概要

1 調査遺跡地名表

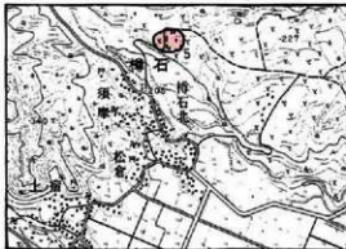
(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	二本松	東田川郡羽黒町大字荒川字二本松	平安時代	段丘(27m)	水畠 田地
2	集落跡	下山	越前郡遵佐町大字直世字目倉神	绳文時代	山(6m)	宅畠 地地
3	集落跡	村松	西置賜郡白鷹町大字萩野字瀧野	绳文時代	山(445m)	果樹園林
4	散布地	木元他	村山市大字土生田字元木284他	奈良時代 平安時代	段丘(72m)	水田
5	散布地	黒木沢A	村山市大字樽石字黒木沢610他	绳文時代	段丘(240m)	宅畠 地地
6	散布地	細越	西置賜郡飯糸町大字須郷字萩野669-4他	绳文時代	段丘(363m)	牧野



第1図 県農林事業関係遺跡(1)

遺跡概要	出土遺物	備考
羽黒町役場の北方600m、藤島川右岸の段丘に立地する。遺跡範囲は未確定。事業区内で試掘調査実施。蓋土工法で現状保存とする。	須恵器・赤焼土器片	平成6年度登録 平成6年8月県教委試掘調査実施
箕輪集落南東300m、山麓部に立地する。東西100m・南北50m。立会い時、既掘削。遺物は施工区隣接の畑地で縄文土器片採取。	縄文土器片	No.2237 平成6年9月県教委立会調査実施
荻野集落東方1.5kmの山腹に立地する。東西300m・南北150m。立会い時、既掘削。未施工地区で時期不明の土坑1基検出。果樹園は造成済。		No.1449 平成6年10月県教委立会調査実施
JR奥羽本線袖崎駅の北北西1.5kmに位置し、最上川の形成した段丘上に立地する。水田に若干の遺物が散布している。	須恵器片	No.638
樽石集落の北方300m、樽石川左岸の段丘上に立地する。南向きの畑地に若干の遺物が散布している。	石器剝片	No.593
白川荘対岸、白川右岸の段丘上に立地する。昭和52年に重機で開墾をしている。試掘調査の結果、遺跡は破壊されたと考えられる。		No.1523 平成6年9月県教委試掘調査実施



第2図 県農林事業関係遺跡(2)



二本松遺跡遠景(南から)



二本松遺跡近景(西から)

図版1 県農林事業関係遺跡(1)



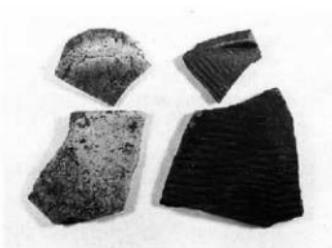
二本松遺跡調査風景（西から）



二本松遺跡 T P 1 溝跡



二本松遺跡 T P 2 土層断面



二本松遺跡出土遺物



下山遺跡工事状況



下山遺跡出土遺物



松村遺跡近景（西から）



村松遺跡工事状況（西から）

図版2 県農林事業関係遺跡（2）



松村遺跡検出土物



元木遺跡近景（南から）



元木遺跡出土遺物



黒木沢A遺跡遠景（東から）



黒木沢A遺跡出土遺物



細越遺跡遠景（西から）



細越遺跡近景（東から）



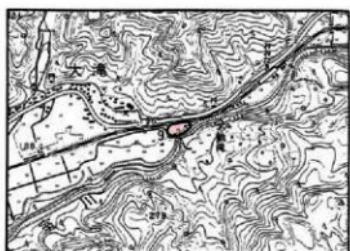
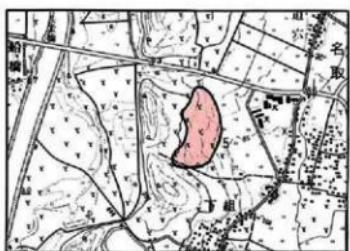
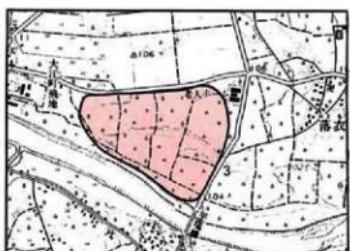
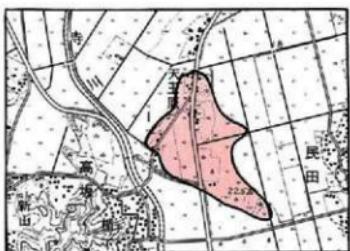
細越遺跡トレンチ状況

図版3 県農林事業関係遺跡（3）

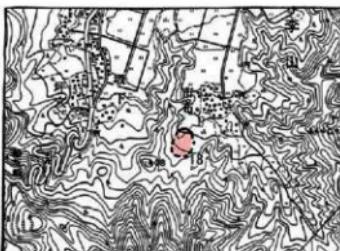
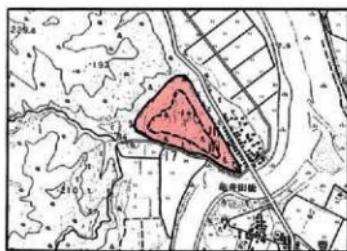
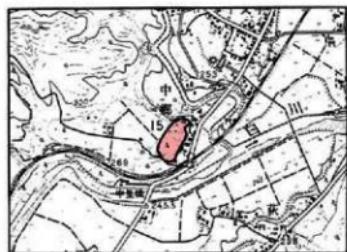
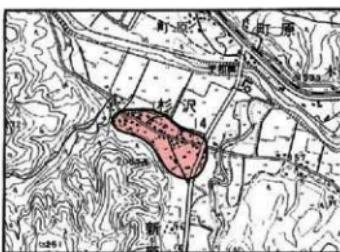
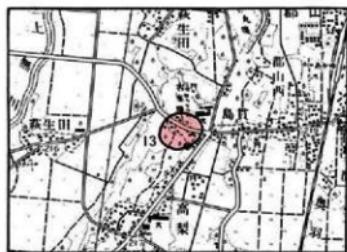
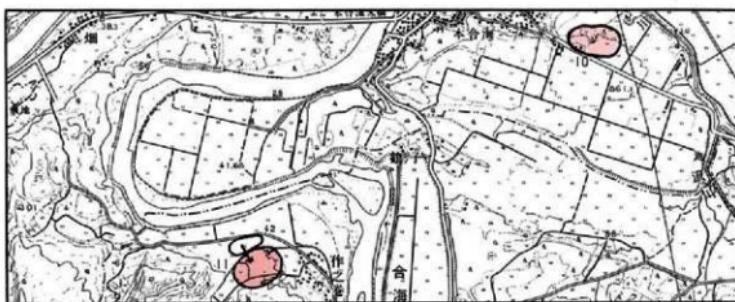
(2) 県土木関係遺跡（補助国道・県道改良事業・砂防事業他）

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	天王原	鶴岡市大字高坂字三ヶ水口・天王原・古町	平安時代 鎌倉時代	自然堤防 (22m)	烟水 地田
2	包蔵地	坂野下	鶴岡市大字坂野下字坂下120他	繩文時代中期	山腹 (130m)	山林 地道
3	集落跡	落衣良著屋城	寒河江市大字柴橋字落衣	平安時代中期	段丘 (105m)	果樹園 田路
4	散布地	堂の前	東根市堂の前	平安時代	平地 (117m)	水果宅 田園地
5	散布地	西原C	村山市大字名取字西原	繩文時代 平安時代	丘陵 (95m)	烟樹 地園水
6	散布地	三瀧	最上郡真室川町大字川の内字上三瀧6の乙	繩文時代	段丘 (165m)	水田
7	散布地	三瀧2	最上郡真室川町大字川の内字上三瀧	繩文時代	段丘 (154m)	烟水 地田
8	散布地	三瀧3	最上郡真室川町大字川の内字上三瀧	繩文時代	段丘 (162m)	烟地
9	散布地	大瀧上野	最上郡真室川町大字及位字上野	繩文時代	段丘 (192m)	烟水 地田
10	散布地	本合海上野	新庄市大字本合海字上野	旧石器時代か	段丘 (60m)	烟山水 地林田
11	散布地	作之巻	最上郡大蔵村大字合海字松山 1916~1918	繩文時代	段丘 (49m)	烟水 地田
12	城館跡	露橋B館	南陽市大字露橋	中世	平地 (210m)	宅道 地路
13	集落跡	六角壇	南陽市大字高梨字六角壇	平安時代	段丘 (218m)	グランド 地地 烟宅
14	散布地	壇の前	西置賜郡小国町大字杉沢字壇の前	繩文時代	段丘 (155m)	烟宅 地地
15	散布地	長者原	西置賜郡飯豊町大字小白川字長者原	繩文時代	段丘 (261m)	山烟 林地
16	散布地	新屋敷	西置賜郡白鹿町大字萩野字新屋敷	繩文時代	段丘 (340m)	烟地
17	城館跡	川前櫓跡	北村山郡大石田町大字龜井田字川前	室町時代	丘陵 (80~140m)	山林
18	集落跡	水上沢武山	米沢市大字市布字水上沢武山	繩文時代	山腹 (351m)	荒山 地林

遺跡概要	出土遺物	備考
高坂集落の東方500m、自然堤防の微高地に立地する。東西500m・南北800mの範囲である。遺物は今回未確認。		昭和63年度登録 平成4年県教委試掘調査実施（高速道）
板野下集落の西北200m、山腹に立地する。昭和44年、土取中に遺物発見。範囲は東西30m・南北40m。遺物は今回未確認。		No1565
「長生園」の南方、最上川右岸の段丘に立地。東西400m・南北600mの範囲。平成6~7年度に埋文センターで高速道用地内緊急調査実施。		No433 平成6年8月県教委試掘調査実施
堂の前公園入口西側の平地に立地する。東西70m、南北120m程の範囲と考えられる。遺物は今回未検出。		No662
村山市浮舟集落の西側、河島山北側の丘陵東斜面から平地一帯に位置する。東西150m・南北400mの範囲と考えられる。遺物は今回未確認。		昭和53年度登録 平成6年12月村山市教委試掘調査実施
JR奥羽本線釜石駅の西北西1.5kmに位置し、三滝川右岸の段丘に立地する。現在の地名は水田。範囲は東西50m・南北60m。遺物は今回未検出。		No990
JR奥羽本線釜石駅の西方1.3km、三滝川左岸の小段丘に立地し、公民館に隣する畑地に遺物が散布している。範囲は南北70m・東西70m。	石器剝片	平成6年度登録
JR奥羽本線釜石駅の西北西1.4kmに位置し、三滝川右岸の段丘上の畑地に若干の遺物が散布する。範囲は東西45m・南北15m。	石器剝片	平成6年度登録
JR奥羽本線大流駅の西南西500m、真室川の形成した段丘に立地する。耕作田に若干の遺物が散布している。範囲は東西160m・南北70m。	甕文土器片・石器剝片	平成6年度登録
JR陸羽西線升形駅の南南西2.9km、新田川の形成した段丘に立地する。青梅色粘土が混入する畑地に遺物が散布。範囲は東西100m・南北200m。	旧石器時代とみられる尖頭器、石刃、碎片	平成6年度登録
大蔵村役場の北面1.6km、最上川の形成した段丘に立地する。畠地内に多数の土器片・石器片が散布している。	甕文土器片・石器剝片	No880 遺跡位置の訂正
露橋集落内の自然堤防上の微高地に立地する。南側の県道部分に掘があったとのことである。敷地内に埴土留用の石材がある。		平成6年度登録
沖綱中学校グランド・西側の道路予定地に3つのトレーンチ設定。柱穴2の検出にとどまった。今回の工事について慎重工事をした。	須恵器・赤焼土器片	平成4年度登録 平成6年10月県教委試掘調査実施
JR米坂線小国駅から南東方向2.5kmに位置し、横川の形成した段丘に立地する。畠地内に多数の石器剝片が散布している。東西500m・南北150m。	石器剝片	平成2年度登録
JR米坂線手ノ子駅の北東1.7kmに位置し、白川左岸の段丘に立地する。畠地内に若干の遺物が散布している。範囲は東西70m・南北140m。	石器剝片	平成6年度登録
フランク屋井猿荒駅の北東3.1km、新屋敷集落と同じ段丘に立地する。畠地内に若干の遺物が散布している。範囲は東西100m・南北180m。	石器剝片	平成6年度登録
川前集落の西側丘陵に立地する。尾根伝いから斜面・山麓部にかけて曲輪や廻跡等の城郭遺構が確認される。範囲は東西250m・南北500m。		No833
市布集落南側山腹に位置する。平成6年5月に試掘調査、同年10月に立会い調査を実施した。甕文時代の土坑・柱穴等が若干検出された。	甕文土器片	平成6年度登録



第3図 県土木関係遺跡(1)



第4図 県土木事業関係遺跡(2)



天王原遺跡近景（東から）



坂野下遺跡近景（東から）



落衣長者屋敷遺跡近景（西から）



堂の前遺跡近景（北から）



西原C遺跡近景（南から）



三浦遺跡近景（北から）



三浦2遺跡近景（北から）



三浦2遺跡出土遺物

図版4 県土木事業関係遺跡（Ⅰ）



三ヶ瀬3遺跡近景（北から）



三ヶ瀬3遺跡出土遺物



大瀬上野遺跡近景（南西から）



大瀬上野遺跡出土遺物



本荘海上野遺跡近景（南西から）



本荘海上野遺跡出土遺物



作之巻遺跡近景（南から）



作之巻遺跡出土遺物

図版5 県土木事業関係遺跡（2）



露橋B館跡近景（東から）



露橋B館跡遺跡出土石材



六角壇遺跡トレンチ状況



六角壇遺跡トレンチ調査風景



六角壇遺跡トレンチ状況



六角壇遺跡溝状遺構



墳の前遺跡近景（北から）



墳の前遺跡出土遺物

図版6 県土木事業関係遺跡（3）



長者原遺跡近景（南西から）



長者原遺跡出土遺物



新星敷遺跡近景（南西から）



新星敷遺跡出土遺物



川前橋跡遠景（南東から）



川前橋跡近景



水上沢式山遺跡立会い調査（西から）



水上沢式山遺跡出土遺物

(3) 産振校舎改築等整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	上谷地 C	米沢市大字川井字上谷地2036 他	奈良時代 平安時代 中世	平地 (243m)	水田 (学校用地)



第5図 上谷地 C 遺跡位置図



図版8 上谷地 C 遺跡

(4) 派出所・駐在所新築事業（南陽警察署高皇警察官派出所）関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	渋作	東置賜郡高畠町大字泉岡字中道417他	奈良時代 平安時代	平地 (220m)	水田



第6図 渋作遺跡位置図



図版9 渋作遺跡

(5) 赤川放水路拡幅事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	包蔵地	黒森	酒田市大字黒森	繩文時代 弥生時代 平安時代	河川床 (2 m)	河川



第7図 黒森遺跡位置図

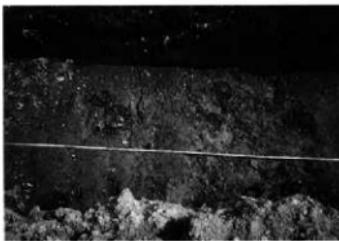


図版10 黒森遺跡

遺跡概要	出土遺物	備考
JR奥羽本線米沢駅の東北東1.6kmの沖積地に立地する。遺跡は学校用地外の西側に広がり東西50m、南北150m以上と推定される。	土師器、須恵器、赤焼土器片	平成6年度新規 平成6年県教委発掘調査実施



上谷地C遺跡TT1検出遺構



上谷地C遺跡TT2検出遺構

遺跡概要	出土遺物	備考
高島町役場南側350mの沖積地に立地する。東西150m、南北100mの範囲と推定される。県教委B調査実施後、緊急発掘調査実施。	土師器・須恵器片	平成5年度登録 平成6年朝山形県埋文センター発掘調査実施



汎作遺跡検出遺構断面



汎作遺跡出土遺物

遺跡概要	出土遺物	備考
現赤川放水路河床から約1m下層で今回遺物を確認。黒森遺跡から東へ約200mの地点となる。現河床のため、遺跡は黒森遺跡の広がりとする。	須恵器片	No2070



河床振削状況



黒森遺跡出土遺物

(6) 悠創の丘整備事業関係遺跡

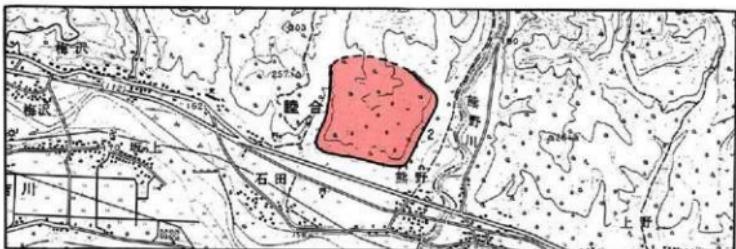
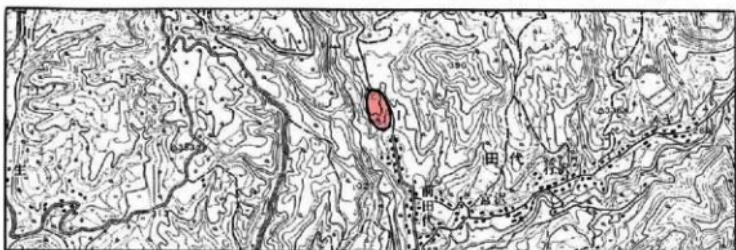
No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	散布地	石コロ	山形市上桜田字石コロ	不 明	山腹 (255m)	畑 地



第8図 石コロ遺跡位置図

(7) 東北電力山形幹線新設工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
1	集落跡	田代水上	寒河江市大字田代字水上	縄文時代	段丘 (300m)	畑 地
2	城館跡	熊野櫛	西村山郡西川町大字疊合字熊野	中 世	丘陵 (200~250m)	公山 園林



第9図 東北電力新山形幹線関係遺跡位置図

遺跡概要	出土遺物	備考
東北芸術工科大学東側の丘陵傾斜地に立地する。遺物は細片で時期不明。三木木地区に至る林道東側で採取。範囲は東西18m、南北40m。	土器片	平成6年度新規



石コロ遺跡近景（西から）



石コロ遺跡出土遺物

図版II 石コロ遺跡

遺跡概要	出土遺物	備考
田代集落西側の寒沢川段丘に立地する。東西170m、南北100mの範囲とを考えられる。遺物は、鐵塔建設予定地及び周辺の畑に散布している。	石器剝片	平成6年度新規 平成6年度寒河江市数 委試掘調査実施
寒河江川左岸、熊野集落の北西丘陵に立地する。現在、畠の森として一箇整備されている。範囲は500m四方程か。曲輪状の平場がある。		平成6年度新規



田代水上遺跡近景（東から）



田代水上遺跡出土遺物



熊野館跡（南側）南から



熊野館跡（北側）西から

図版I2 東北電力新山形幹線関係遺跡

2 試掘調査の概要

(1)柳久瀬A遺跡(平成4年度登録)

所在 地 山形県東田川郡藤島町大字柳久瀬

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年9月29・30日 平成6年10月27・28日

起因事業 県営ほ場整備事業(柳久瀬地区)

遺跡環境 JR羽越本線藤島駅から南に約3.5km、藤島川左岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田、畑地、墓地となっており、標高は約13~15mを測る。

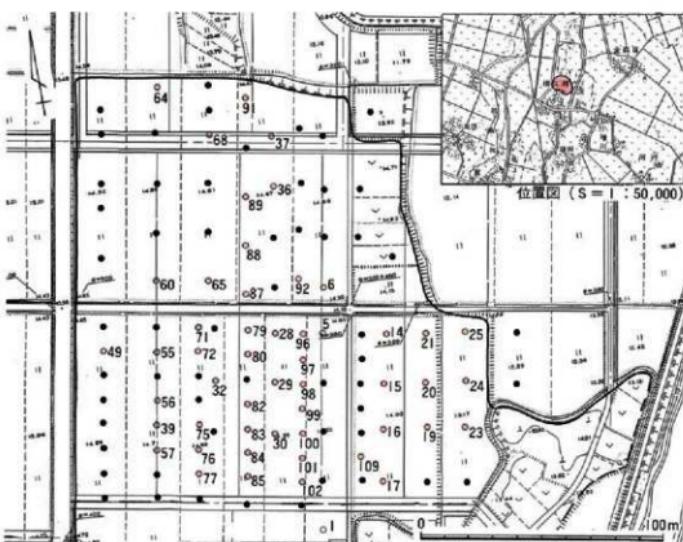
試掘状況 県営ほ場整備の事業予定地区内に縦、横1mの試掘坑を合わせて110箇所設定し、遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 110箇所の試掘坑の内、46箇所で平安時代の遺物が出土し、9箇所で土壌、溝跡、柱穴等の平安時代の遺構が検出された。遺構確認面はIV層上面である。遺跡の範囲は東西200m、南北200m、面積は34,000m²に及ぶ。

南東部は過去のほ場整備事業による搅乱が認められ、遺物も摩滅していた。

また、現農道の北側は遺構・遺物の分布は希薄で、遺跡の中心部はTP96~102を結ぶ線の西側と考えられる。

事業側との保存協議により、遺跡の中心部は切り土対象から除外され、現状保存が図されることとなった。



第10図 柳久瀬A遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



TP39 土層柱状図



TP49 土層断面（南から）



TP57遺構検出状況（南から）



出土遺物

図版13 柳久瀬A遺跡

(2) 向田遺跡 (平成6年度登録)・門出遺跡 (平成6年度登録)

所 在 地 向田遺跡 山形県酒田市大字本楯字向田138~140

門出遺跡 山形県酒田市大字穗積字門出24-1~25

調査員 名和達朗

調査期日 向田遺跡 A調査 平成6年10月14日 B調査 平成6年10月17~19日

門出遺跡 A調査 平成6年10月19日

起因事業 県営ば場整備事業 (西荒瀬地区)

遺跡概要 向田遺跡は、JR羽越本線本楯駅から北へ500m、門田地区南東の道路沿いに位置する。標高6.4m、日向川左岸に近い沖積地の水田に立地する。遺跡の西方は、庄内砂丘地までつづく水田景観である。範囲は、東西180m・南北60m・面積10,000m²の広がりである。

調査は、A調査で遺物の散布が確認できた道路から電力鉄塔付近について、32箇所の坪掘りを入れ実施した。遺構は、TP17から溝状遺構、TP22から土壌がみとめられた。確認面はⅢ層面で、深さ22cm前後を測る。遺物は、TP15・16・18~21・25から平安時代の土器を検出した。

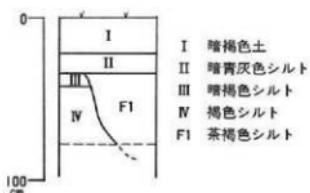
門出遺跡は、門田地区から市神地区にいたる道路北側の畠地に位置する。向田遺跡からは、北西900mの距離である。日向川左岸に隣接する標高10.5mの自然堤防上に立地する。範囲は、東西80m・南北30m・面積2,000m²。遺物は、平安時代の土器を採集した。



第11図 向田遺跡概要図



向田遺跡近景（西から）



TP22 土層柱状図



門出遺跡近景（西から）



向田遺跡TP22土層断面

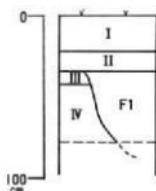


出土遺物

図版14 向田遺跡



向田遺跡近景（西から）



- I 暗褐色土
- II 暗青灰色シルト
- III 暗褐色シルト
- IV 褐色シルト
- F1 茶褐色シルト

TP22 土層柱状図



門出遺跡近景（西から）



向田遺跡TP22土層断面



出土遺物

図版14 向田遺跡

(3) 鶴田野2遺跡 (平成4年度登録)・鶴田野3遺跡 (平成6年度登録)

所在地 鶴田野2遺跡 山形県最上郡鮭川村大字川口字鶴田野

鶴田野3遺跡 山形県最上郡鮭川村大字川口字鶴田野

調査員 B調査 名和達朗

調査期日 鶴田野2遺跡 平成6年11月15~16日

鶴田野3遺跡 平成6年11月16~17日

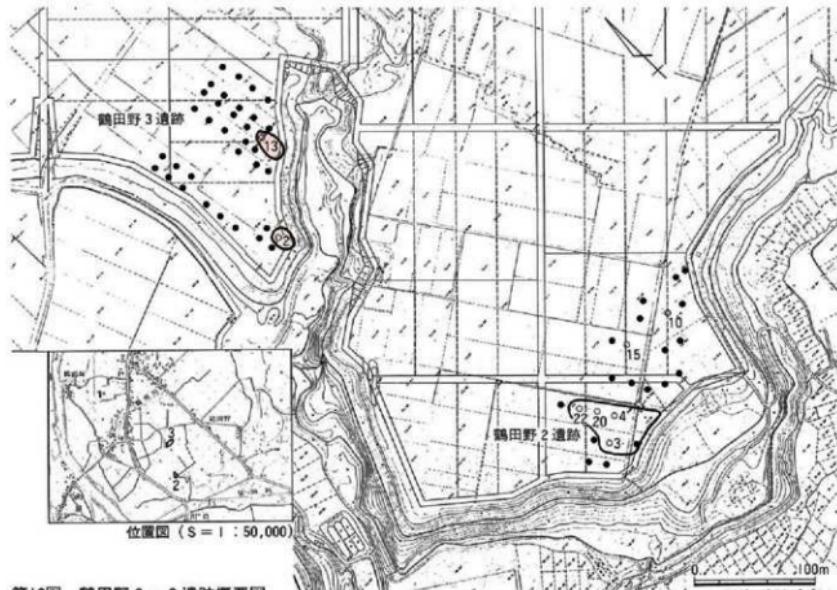
起因事業 県営ほ場整備事業(鶴田野地区)

遺跡概要 両遺跡は、鮭川村の南東部・鶴田野地区に位置する。南流する鮭川左岸に形成された河岸段丘上に立地し、上流部から鶴田野3遺跡、同2遺跡と、間に谷合を挟む標高73~72.5mの水田・畑地に隣接して分布する。

鶴田野2遺跡は、舌状に張り出す段丘の東側縁辺部について24箇所設定した。

TP3・4・10・15・20から縄文土器・石器が確認された。但し、この一帯は以前に基盤整備が行われた地区であり、調査地点はほとんど重機による削平を受けた堆積状況である。

鶴田野3遺跡は、同様35箇所設定した。TP2から柱穴1本と縄文土器片を検出。確認面は深さ22cm・III層上面。TP13から縦長のフレイク1点を検出。確認面は深さ37cm・III層上面。以上の2地点のみであった。遺跡の保存状態は、ここも同様の削平がみとめられたが、TP13の地点は、比較的深い確認位置であり遺存の可能性が考えられる。



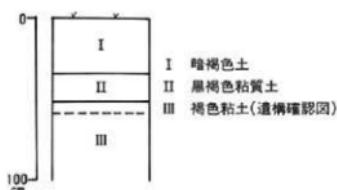
第12図 鶴田野2・3遺跡概要図



鶴田野2遺跡近景（北東から）



TP22土層断面



TP2 土層柱状図



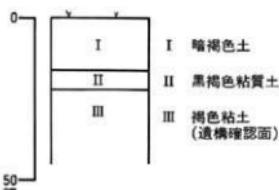
出土遺物



鶴田野3遺跡近景（北西から）



TP23土層断面



TP2 土層柱状図



出土遺物

図版15 鶴田野2・3遺跡

(4) 尼子岩陰東地区 (遺跡番号1,256)

所 在 地 山形県東置賜郡高畠町大字二井宿字小湯

調査員 長橋 至 (調査協力 高畠町教育委員会)

調査期日 平成6年11月22日

起因事業 中山間地域農村活性化総合整備事業

遺跡環境 小湯山南側、小湯川の沢筋の狭い平場に位置する。尼子岩陰の前部とも考えられる。標高は約332m、東地区的範囲は現小湯川右岸の30×60m。

試掘状況 尼子岩陰は今回の事業地区外である。岩陰に隣接する平坦部(現水田)は事業地区内となるため4箇所の試掘区を設定し、遺構・遺物の出土状況を探った。

調査結果 本岩陰については、昭和37年の調査会報及び高畠町史別巻考古資料編で出土遺物等について記載がある。縄文時代草創期から晩期までの遺物が出土している。

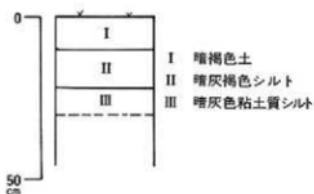
今回は、隣接する平地部分への遺跡の広がりの有無を調査目的とした。その結果、TP2~4で少量だが縄文時代の土器片と石器剝片が出土した。遺構は未検出である。したがって、遺跡は岩陰部分を中心に東側の平坦部へ若干広がることが確認された。



第13図 尼子岩陰東地区概要図



遺跡遠景（東から）



TP2土層断面（南から）



TP4土層断面（南から）



出土遺物

図版16 尼子岩陰東地区

(5) 渡戸遺跡 (遺跡番号337)

所 在 地 山形県天童市大字山口字坊所

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年10月24・25日

起因事業 広域営農団地農道整備事業（村山東部地区）

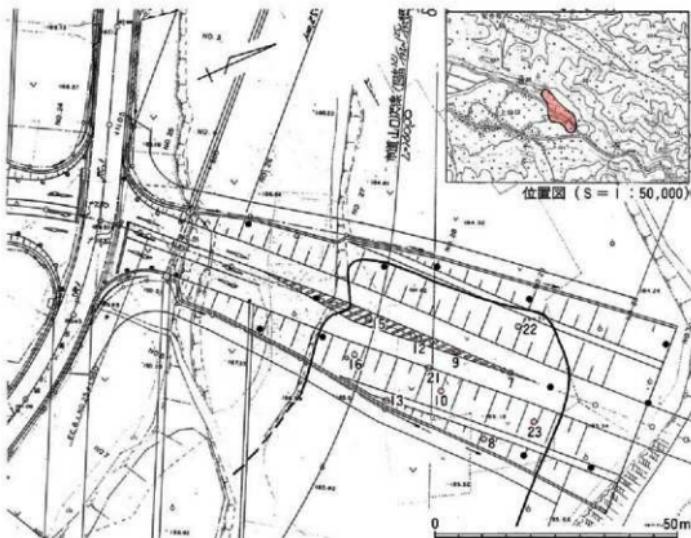
遺跡環境 JR奥羽本線天童駅から北東に約6km、押切川左岸の河岸段丘上に立地する。地目は畑地、果樹園となっており、標高は185mを測り、現河床からの比高は5mとなっている。

試掘状況 予定路線内に縦、横1mの試掘坑を23箇所設定し、遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 23箇所の試掘坑の内、10箇所で縄文時代の遺物が出土し、5箇所で堅穴住居跡等の遺構が検出された。遺構確認面はIV層上面である。

遺跡の範囲は明確ではないが、東西200m、南北500mに及ぶと考えられる。

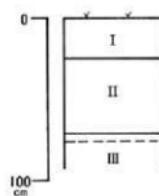
路線内は縄文時代後期の集落跡と考えられ、一部、果樹の根による搅乱が認められるものの、概して、保存状況は良好であり、1,500m²が路線内にはいることが確定した。



第14図 渡戸遺跡概要図



遺跡近景（西から）



I 噴褐色シルト
II 黒褐色砂質シルト
(遺物包含層)
(III) 棕色シルト
IV 棕色砂

TP16 土層柱状図



TP16ピット検出状況（南から）



TP7土層断面（南から）



出土遺物

図版17 渡戸遺跡

(6) 落合遺跡 (遺跡番号642)

所在地 山形県村山市大字土生田字落合

調査員 A調査 渋谷孝雄

B調査 名和達朗

調査期日 A調査 平成6年10月14日

B調査 平成6年10月28日

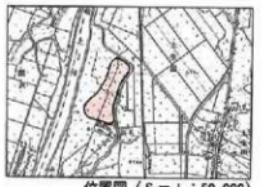
起因事業 ふるさと農道緊急整備事業 (拝見地区)

遺跡概要 遺跡は、村山市街北部、JR奥羽本線袖崎駅から北々西1kmの距離に位置する。東側は北流する沢の目川左岸、西側は最上川右岸、北西はその合流地点にそれぞれ隣接し、遺跡は、その間に広がる河岸段丘上に立地する。標高は、75mを測る。この地域は、以前に縄文時代中期前葉の遺物が多量に採集された所であり、地形等を考慮すると大規模な広がりをもつ集落跡が考えられる。範囲は、東西300m・南北600m、面積150,500m²を推定する。

A調査結果では、高玉地区北側に広がる畠地及び水田一帯に遺物の散布域が確認され、道路整備計画地周辺の畠地から多量の遺物が採取された。

B調査は、計画区域である現道拡幅部分について実施した。農道の両側を対象に坪掘りを11箇所設定し、遺構・遺物の確認を行った。遺構は、TP 3・9・11から土壤、TP 2・4から柱穴がみとめられ、南北方向に比較的広範囲な分布域が確認できた。確認面は、IV層面で、浅い地点で深さ30cm以上である。遺物は、坪掘りを行った全地点から縄文時代の遺物が検出され、A調査と同様の結果を示した。

TP 10設定地点は、道路面よりも一段低い水田である。以前の基盤整備で削平を受けた堆積状況がみとめられた。



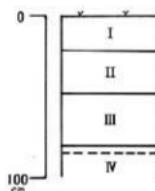
位置図 (S = 1 : 50,000)



第15図 落合遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP1 土層柱状図



TP4 土層断面



出土遺物



出土遺物

(7) 荒川、荒川2遺跡 (米沢市遺跡地図No.363、平成4年度登録)

所 在 地 山形県米沢市塙町塙野字荒川下697-1他

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年10月5・6日

起因事業 国道112号線道路改良

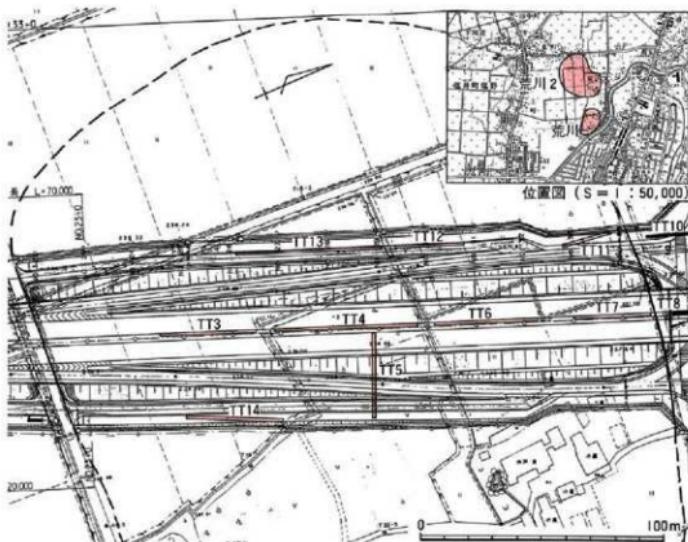
遺跡環境 米沢市役所から北西に約1km及び1.3kmの沖積平野に立地する。地目は畠地、水田、宅地となっており、標高は240mを測る。

試掘状況 予定路線内に重機を使用した幅1.4mの試掘溝を合わせて16本設定し、遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 荒川遺跡では奈良～平安時代の若干の土器片が出土したに留まり、遺跡の中心部は路線に及んでいないと判断された。

荒川2遺跡では、TT3～8、10～14の各試掘溝で奈良～平安時代の遺構と遺物が多数検出された。検出遺構は、土壙17基、落込み6基、溝跡9条、柱穴60基、大溝もしくは旧河川跡が1条以上等で、大溝からは奈良時代後半の多数の土器が出土した。

遺跡は東西200m、南北250mに及ぶものと推定され、このうち、路線内の面積は19,500m²となるものと考えられる。



第16図 荒川、荒川2遺跡概要図



荒川遺跡近景（南から）



荒川遺跡TT1土層断面（西から）



荒川2遺跡近景（北東から）



荒川2遺跡TT7遺構検出状況（南から）



荒川2遺跡TT14遺構検出状況（南から）



TT13河川跡一括土器出土状況（北西から）

0	I 暗褐色粘土質シルト
10	II 黒褐色シルト質粘土
20	III 暗褐色粘土
30	F2 暗灰褐色砂混り粘土
40	F2 黑褐色砂混り粘土
50	F3 黑色粘土
60	F4 黑褐色粘土
70	F5 暗灰褐色粘土
80	F6 暗褐色シルト混り粘土
90	F6 黑褐色粘土
100	F6F8 黑色粘土混り粗砂
110	F7 黑褐色粘土
120	F8 地山 砂層
130	*F8・9 奈良時代遺物包含層

TT13 土層柱状図



出土遺物

図版19 荒川・荒川2遺跡

(8) 下柳 A 遺跡 (遺跡番号152)

所 在 地 山形県山形市大字青柳字上柳

調 査 員 渋谷孝雄・長崎至

調査期日 平成6年11月8~11日 平成7年12月7~9日

起因事業 仮称山形県立保健医療短期大学整備事業、仮称健康の森公園整備事業他

遺跡環境 JR奥羽本線羽前千歳駅から北北東に約1.2km、高瀬川左岸の自然堤防に立地する。地目は大半が水田となっており、標高は107mを測る。

試掘状況 用地内に重機を使用した幅1m長さ10mの試掘溝を32本、縦、横1mの試掘坑を127箇所設定し、遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 32本の試掘溝のうち、17本で古墳時代中期の土器が出土し、4本で竪穴住居跡、土壙等の遺構が確認された。

127箇所の試掘坑のうち、30箇所で古墳時代と考えられる遺物が出土し、9箇所で竪穴住居等の遺構が確認された。

以下、遺構や一括土器が検出された主要な試掘溝及び試掘坑の状況を記す。

TT3 —— II、III層から土師器1袋が出土した。竪穴住居跡、土壙、溝跡と考えられる土色変化を確認した。

TT8 —— 竪穴住居跡と考えられる土色変化を確認した。III層及び竪穴住居跡の堆積土から一括土器3個体のほか2袋の土師器が出土した。

TT10 —— II、III層中から土師器1袋が出土した。土壙と考えられる土色変化を確認した。

TT13 —— 竪穴住居跡と考えられる土色変化を確認した。IIIb層及び、竪穴住居跡の堆積土から3個体の土師器と、2袋の土師器が出土した。

T114 —— II層中で表面が炭化した柱根1基を検出した。

T126 —— 土師器甕1個体が出土した。試掘坑は竪穴住居跡の中に位置すると考えられる。

T129 —— 土師器1袋が竪穴住居の堆積土と考えられる層から出土した。

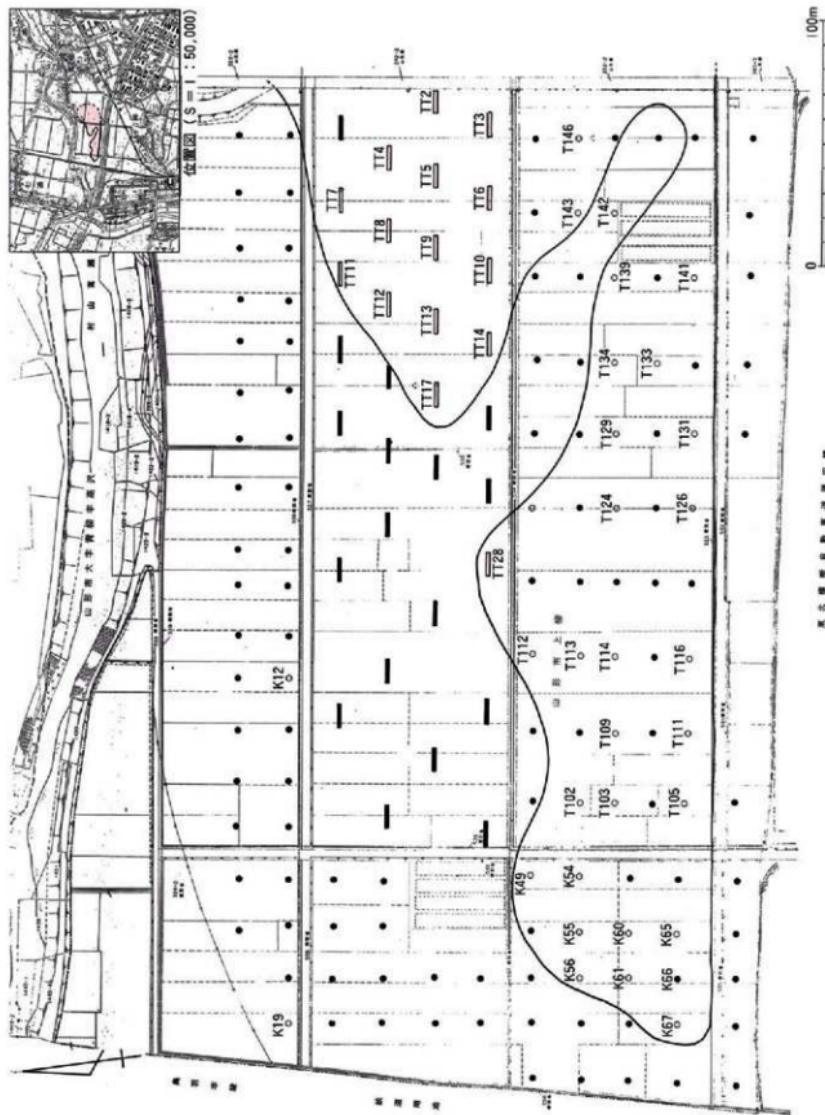
T133 —— 土師器の甕、壺が各1個体出土した。出土層準は竪穴住居の堆積土と考えられる。

K19 —— 時期不明の板材列を確認した。

K67 —— 時期不明の板材列を確認した。

遺跡は東西600m、南北100~250mに及ぶものと推定され、県立保健医療短期大学の敷地の南東側の半分が遺跡内に入ることが明かとなった。県教委ではできるだけ現状保存を図る方向で事業側との協議を進めた結果、遺跡の大半は単純盛土のうえグランド、駐車場敷地とすることで事業者側との協議が整った。しかし、敷地北東側の一部は建物の建築が避けられず、この部分については緊急発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。

第17図 下柳A遭防柵要因





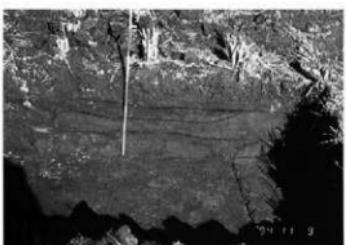
遺跡近景（南西から）



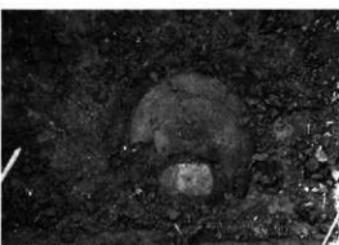
調査状況（北東から）



TT8土師器出土状況（北から）



TT8土層断面（南から）



TT13土師器出土状況（東から）

図版20 下柳A遺跡(Ⅰ)



TP126 土層断面・土器出土状況(南から)



TP133 土層断面・土器出土状況(南から)



K49 土層断面(西から)



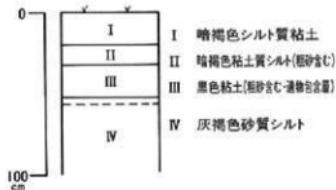
K67 檀出板材列(南から)



出土遺物



出土遺物



TT28 土層柱状図

図版21 下柳A遺跡(2)



K61 土層柱状図

(9) 清水脇2遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県村山市大字土生田字清水脇1791-4他

調査員 長橋 至 (調査協力 村山市教育委員会)

調査期日 平成6年11月15・16日

起因事業 国道13号山形北バイパス建設工事

遺跡環境 国道13号の尾花沢市と大石田町方面への分岐点から南東へ約250m、標高82~84mの山麓部に立地する。平成4年度及び5年度に試掘調査実施。

試掘状況 用地関係で3ヶ年に亘って調査をおこなった。今回は、過去2年の調査結果に基づき、9本のトレンチ・9カ所の試掘区を設定し遺跡の状況を探った。なお、遺跡南側約3分の1は、調査時に柔作物作付け中で調査から除外した。

調査結果 TT2~4で柱穴が8基、TT8で土壤2基、TT8・9で溝跡1条が検出された。遺構内の遺物出土はなく、時期は不明である。

TT5~7の範囲では、過去に柔抜根時の捨て穴が大規模に掘られており、大半が搅乱を受けている状況を呈していた。

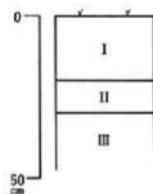
平成4・5年の調査結果及び今年度の調査結果から、遺跡範囲は昨年度分布調査報告書(21)に記載した範囲を修正し、東側へ北半部の水田部分は遺跡外とし、東西70m・南北60mとなる。



第18図 清水脇2遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TT8 土層柱状図



調査風景（東から）



TT4検出遺構（南から）



TT8検出遺構（南から）

図版22 清水脇2遺跡

(10) 土崎遺跡 (遺跡番号2027)

所在地 山形県酒田市大字土崎字屋敷添

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年10月17・18日

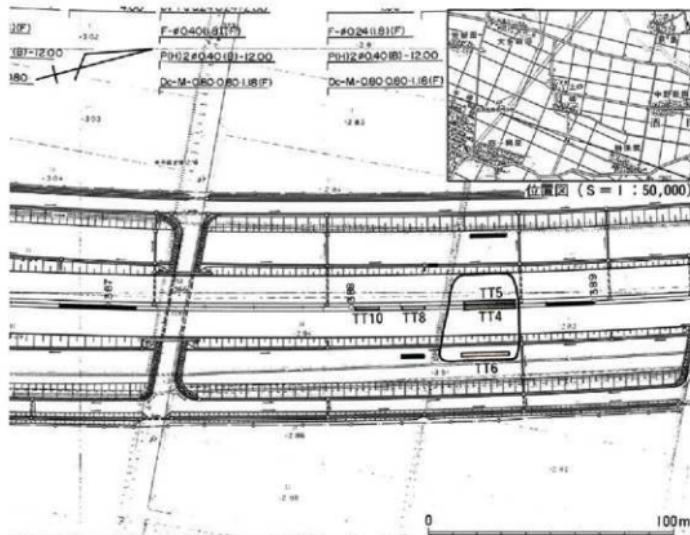
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (酒田北工事区)

遺跡環境 JR羽越本線東酒田駅の北方500mに位置し、標高2~3mの沖積平野に立地する。地目は水田である。

試掘状況 幅1.5m、長さ10~50mの試掘溝を10本設定し、重機で表土を除去して遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 10本のレンチのうち、TT4、5、6、8、10の5本から平安時代の遺物が出土し、TT6で土壙2基を検出した。遺構の分布する範囲は東西35m、南北30mの極狭い範囲に限定され、他は地山が泥炭となっていた。水田耕作土(15cm)、床土(5cm)の直下が平安時代の遺構確認面となっている。

沖積平野の微高地に立地する小規模な集落と考えられる。



第19図 土崎遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TT6 土層柱状図



TT4土壤検出状況（南から）



TT4土層断面（西から）



出土遺物

図版23 土崎遺跡

(11) 梵天塚遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県酒田市大字牧曾根字梵天塚

調 査 員 渋谷孝雄

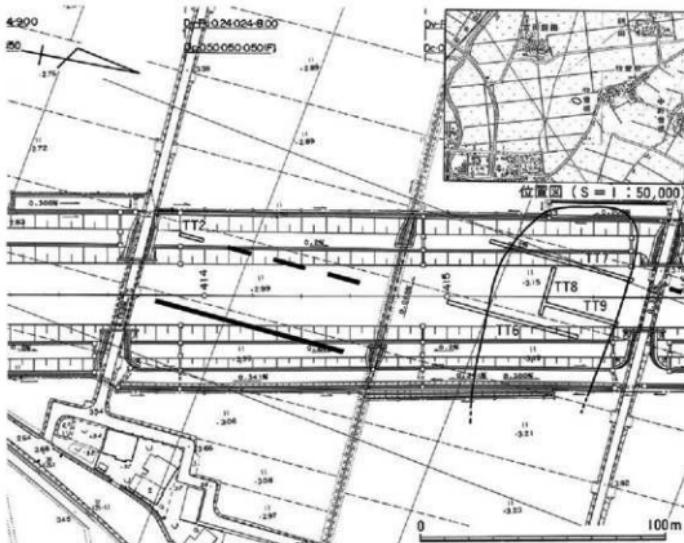
調査期日 平成6年10月18・19日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事（酒田北工事区）

遺跡環境 J R羽越本線酒田駅の北東2.5kmに位置し、標高3mの沖積平野に立地する。地目は水田である。

試掘状況 幅1.5m、長さ10~80mの試掘溝を14本設定し、重機で表土を除去して遺構・遺物の分布状況を探った。

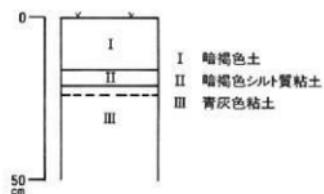
調査結果 14本のレンチのうち、TT6、7、8、9の4本から中世の所産と考えられる土壤や溝跡を多数検出した。用地内で東西70m、南北50mの範囲内で遺構が分布することが明かとなった。水田耕作土(16cm)、床土(5cm)の直下が遺構確認面である。土壤の堆積土は黒色粘土で墓壙の可能性が高い。



第20図 梵天塚遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



TT6土塙群検出状況（北から）



TT6土層断面（西から）



出土遺物

図版24 梵天塙遺跡

(12) 中谷地遺跡 (平成元年度登録)

所在 地 山形県酒田市大字吉田中谷地1~3外

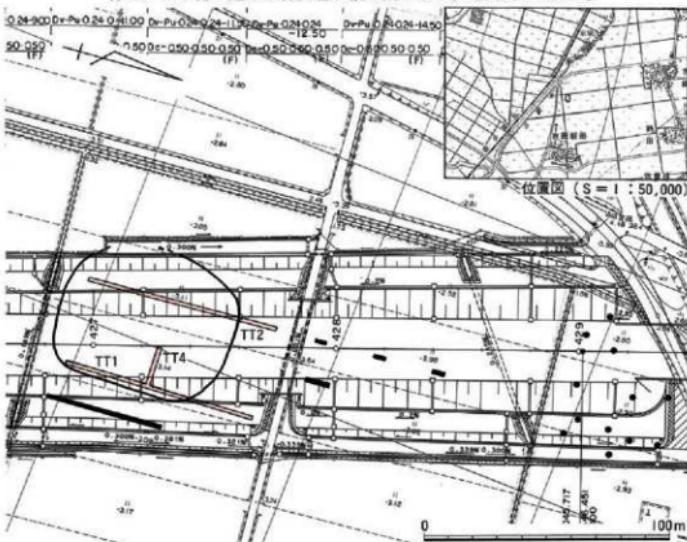
調査員 名和達朗・長橋 至

調査期日 平成6年10月20・21日

起因事業 東北横断自動車道酒田線（酒田北工事区）

遺跡概要 遺跡は、酒田市街北部、JR羽越本線京屋踏切の南側で吉田新田から京屋地区に至る道路沿いの水田地帯に位置する。吉田新田地区からは、北へ500mの距離である。西側は、幸福川右岸に隣接する。標高は、3mの平地に立地する。範囲は、東西50m・南北70m、面積3,500m²の広がりである。

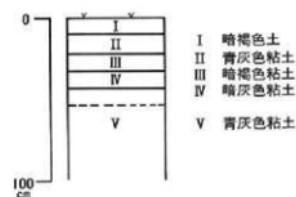
調査は、重機によるレンチと手掘りの坪掘りで行った。レンチは、9本入れ調査対象区域の中央から南側にかけて実施した。その結果、TT2から土壤1基、溝跡1条、須恵器の完形土器、TT1・3・4・7から遺物の出土がみとめられた。一帯は以前に水田基盤整備が行われ、遺構・遺物は全面に広がりを呈する状況ではなく、比較的深い包含区域が部分的に破壊を免れたものと考えられる。遺構確認面は、IV層で水田面下38cmの深さである。出土遺物は、平安時代の赤焼土器、須恵器で合計9袋の数量である。坪掘りは、重機の入れない区域について実施した。レンチ調査区域北側の水路と道路間の水田範囲で、13箇所設定して行った。遺構・遺物は、みとめられず、全体にグライ化の進んだ青灰色の粘土質であり、地山面まで深い。



第21図 中谷地遺跡概要図



TT2南半(北から)



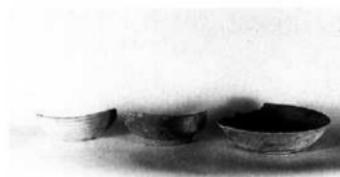
TT2 土層柱状図



TT5 土層断面



TT2出土須恵器



出土遺物

図版25 中谷地遺跡

(13) 三条遺跡 (遺跡番号423)

所 在 地 山形県寒河江市大字寒河江字三条

調 査 員 渋谷孝雄・長橋 至

調査期日 平成6年8月22日・23日

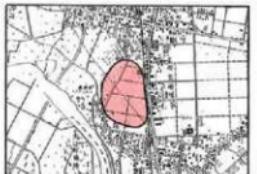
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設(寒河江工事区)

遺跡環境 JR左沢線の西側から高瀬山遺跡までの平地に立地する。標高は約95m、遺跡範囲は、東西400m×南北推定800mの広大な面積と考えられる。地目は水田・畠・果樹。

試掘状況 路線内に43箇所の試掘区を設定し、人力で地山まで掘り下げ、遺構・遺物の分布状況を探った。JR左沢線寄り(センター杭13+60~14+40)は調査時、水が溜まっていたり、調査から除外した。

調査結果 センター杭No15以西はほぼ全域で遺構・遺物が検出された。遺構はTP16+19・22+25で奈良～平安時代の竪穴住居跡と考えられる遺構が検出されている。その他、柱穴や土壤等も確認されている。TP21では、2つの文化層が確認された。上層に奈良平安時代の遺物と柱穴が、さらに60cmほど下層から古墳時代の土器片が出土した。重複する2枚の文化層がどの程度の広がりで分布するかは今回の試掘調査では不明である。

なお、本遺跡については、今回の試掘調査の結果を基に、平成6年10月に、山形県埋蔵文化財センターにより緊急発掘調査として今回未調査部分を含め、予備調査が実施された。



位置図 (S = 1 : 50,000)



第22図 三条遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP21 土層柱状図



TP16土層断面（南から）



TP21土層断面（東から）



出土遺物

図版26 三条遺跡

(14) 落衣長者屋敷遺跡 (遺跡番号433)

所 在 地 山形県寒河江市大字柴橋字落衣

調 査 員 渋谷孝雄・長橋 至

調査期日 平成6年8月23・24日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設

(寒河江工事区)

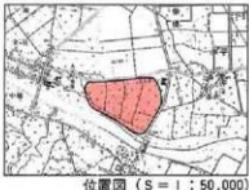
遺跡環境 最上川左岸の河岸段丘に立地する。遺跡範囲は、東西400m・南北600m（推定）と考えられる。標高は今回調査対象とした高速道予定地で約106mを測る。

試掘状況 高速道センター杭を基準に概ね20m間隔で22箇所の試掘区を設定し、人力で地山まで掘り下げ造構・遺物の分布状況を探った。

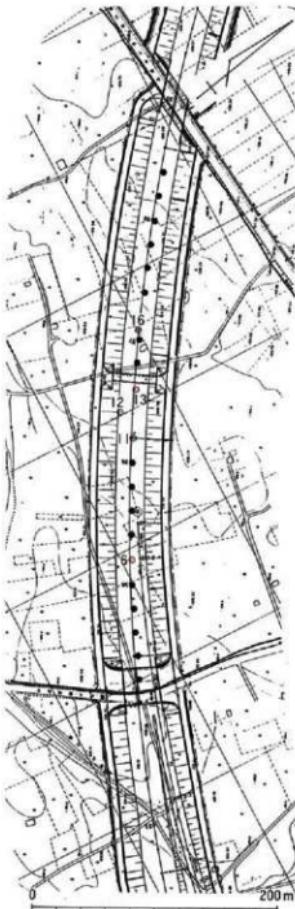
調査結果 予定路線の東側と西側は今回の試掘調査では造構・遺物は未検出であった。TP 6で黒色土の落ち込み、TP 11~13で柱穴各1、TP 16で柱穴3が検出された。遺物は試掘区からは出土していない。

なお、TP 6の南側畠地（路線内）で須恵器片を、TP 16の北側畠地（路線外）で石器剝片が表採された。

本遺跡については、今回の試掘調査の結果を基に、平成6年10~11月に山形県埋蔵文化財センターにより緊急発掘調査として予備調査が実施された。



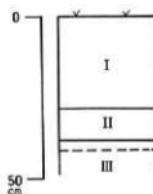
位置図 (S = 1 : 50,000)



第23図 落衣長者屋敷遺跡



遺跡近景（北西から）



I 暗褐色シルト
II 暗褐色シルト質粘土
III 黄褐色砂質シルト



TP11土層断面（東から）



TP13土層断面（東から）



出土遺物

図版27 落衣長者屋敷遺跡

(15) 高松II遺跡 (平成元年度登録)

所在地 山形県寒河江市大字柴橋字高松

調査員 長橋 至

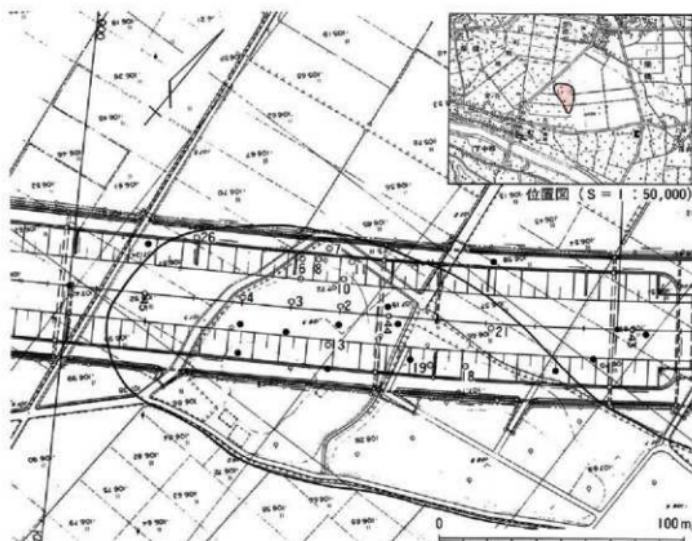
調査期日 平成6年5月17・18日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設（寒河江工事区）

遺跡環境 寒河江市金谷集落から北東約500m、水田中の比高1m程の微高地に立地する
(微高地部分は果樹園)。標高は約108mを測る。

試掘状況 微高地を中心に路線内に約20mの間隔で28箇所の試掘区を設定し人力で地山
まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 ほぼ全域で遺構・遺物が検出された。遺構はTP13で溝状の遺構が検出され
た他は柱穴がTP2・3・7・8・10・11・18・19・26で1～2基検出され
た。遺物は、縄文時代の石鏃と石器剝片がTP3で、石器剝片がTP6・13・
19・21・26で出土した。平安時代の須恵器はTP4で出土した。
以上により、本遺跡は縄文時代と平安時代の2時期の遺跡と考えられる。また、果樹地とな
っている遺跡の中心部(微高地)の周辺の水田にも遺跡が広
がることが今回の調査で確認された。なお、東側の水田部はやや粘土質の強
い遺物包含層・地山となる。



第24図 高松II遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP18 土層柱状図



TP13検出遺構（東から）



TP18検出遺構（北から）



出土遺物

図版28 高松II遺跡

(16) 高松Ⅲ遺跡（平成元年度登録）

所在 地 山形県寒河江市大字柴橋字高松

調査 員 長橋 至

調査 期 日 平成 6年 5月18日

起因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設（寒河江工事区）

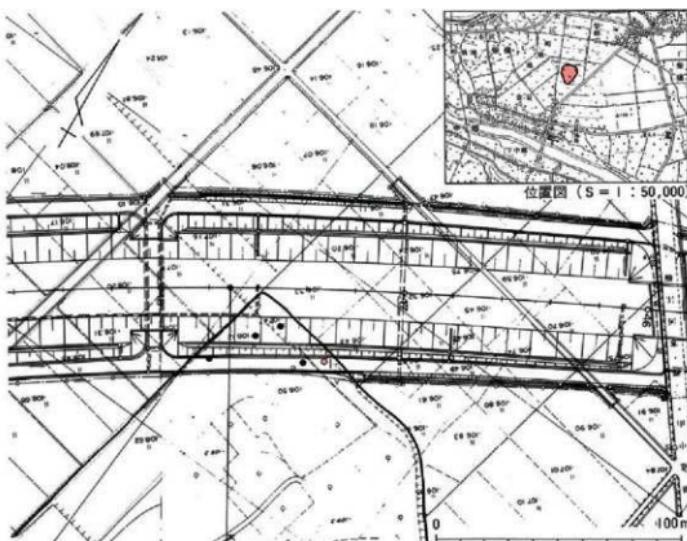
遺 蹤 環 境 寒河江市金谷集落から北約400m、水田からの比高2m程の微高地に立地する（微高地部分は果樹・畠地）。標高は約108～109mを測る。

試 挖 状 況 路線内の遺跡部分について5箇所の試掘区を設定し人力で地山まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を探った。

調査 結 果 遺跡範囲のうち、高速道用地にかかる範囲は遺跡北東部の一部（約1200平方m程）である。試掘調査では、遺跡北西端の平坦部から傾斜する地点（TP1）で平安時代の赤焼土器・須恵器片がやや多量に一括して出土した。その他の試掘区でも若干土器片が出土しているが、摩滅が激しく、また土層等から、2次堆積の可能性が考えられた。

標準的な堆積状況はTP1だが、今回の試掘結果では、投棄された遺物の集中地点かあるいは土壤等の遺構に関係するかは不明である。

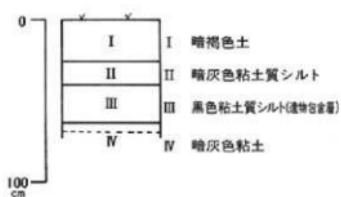
遺跡の中心は今回試掘対象とした高速道用地外の南北側微高地一帯と想定される。



第25図 高松Ⅲ遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TPI 土層柱状図



TPI 土層断面（北から）



TP4 土層断面（北から）



出土遺物

図版29 高松III遺跡

(17) 平野山古窯跡群第12地点遺跡（遺跡番号440）

所 在 地 山形県寒河江市大字柴橋字高松・木ノ沢、大江町大字左沢字木ノ沢

調査員 渋谷孝雄・長橋至

調査期日 平成6年8月24日

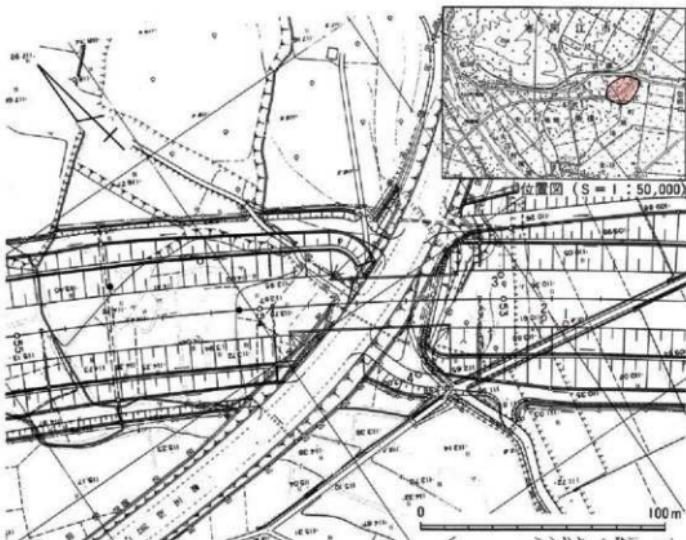
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設（寒河江工事区）

遺跡環境 JR左沢線柴橋駅から東へ約1km、平野山窯跡群の最南端に位置する。丘陵の裾に立地し標高は約115mを測る。国道287号線道路改良に伴い、平成3年度に県教育委員会により緊急調査が実施されている。

試掘状況 路線内の遺跡範囲について7箇所の試掘区を設定し人力で地山まで掘り下げ遺構・遺物の分布状況を探った。

調査結果 7箇所設定した試掘区のうち、国道287号線南東側を中心に遺物が出土した。今回の出土遺物は平安時代の須恵器・赤焼土器・土師器片である。平成3年度の調査で検出された绳文時代の落とし穴遺構に関する遺物は未確認である。TP2・3は出土状況から窯跡の灰原の可能性が考えられる。国道北西側は、改田・果樹地造成等で遺構・遺物は希薄であった。

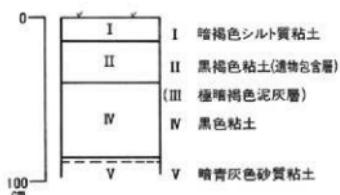
以上により、本遺跡は東西200m×南北300mの範囲となるが、遺構・遺物の集中する地区は国道南東側一帯と考えられる。



第26図 平野山古窯跡群第12地点遺跡概要図



遺跡位置図（東から）



TT2 土層柱状図



TT1土層断面（東から）



TP2土層断面（東から）



出土遺物

図版30 平野山古窯跡群第12地点

(18) 鷺岡山遺跡（平成元年度登録）

所在 地 山形県寒河江市大字谷沢字鷺岡山

調査 員 渋谷孝雄

調査 期 日 平成 6 年 8 月 25 日

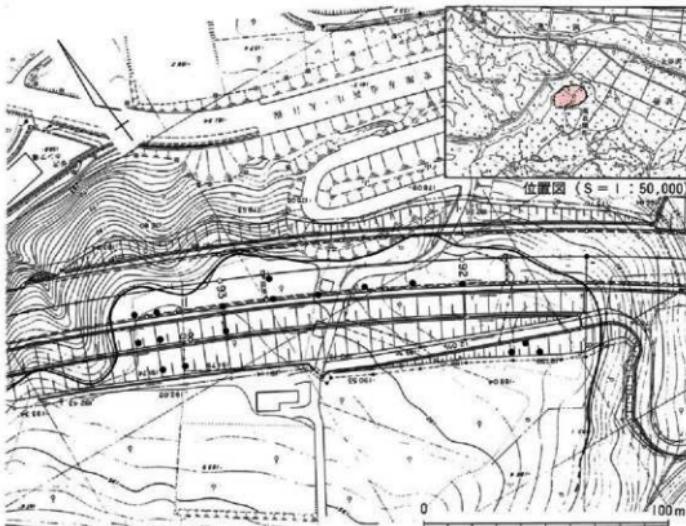
起因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設（寒河江工事区）

遺 蹤 環 境 寒河江川右岸、上谷沢集落から南西へ約700m、標高約200mの丘陵に立地する。遺跡は県立寒河江高等学校農業校舎実習地とその上の丘陵に広がる。

試 挖 状 況 路線内に19箇所の試掘区を設定し人力で地山まで掘り下げ、遺構・遺物の分布状況を探った。

調査 結 果 遺跡は、現地の地形から東西210m×南北400mの範囲と推定される。今回は高速道予定地に限定して調査を実施した。

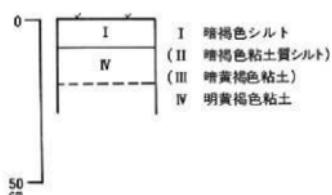
その結果、19箇所の試掘区（TP）のうち、TP 1・8 から石器剝片が各1点出土した。出土層位は、いずれも表土直下の赤土層（赤褐色粘土）である。土器片の出土が未確認の点も考慮し、今回の調査地区については、旧石器時代の遺跡の可能性が考えられた。しかし、他のTPの状況から、高速道予定地部分は、果樹園の造成等で大半が削平を受けていることも明かとなった。



第27図 鷺岡山遺跡概要図



遺跡近景(東から)



TP8 土層柱状図



TP1 土層断面(東から)



TP8 土層断面(南から)



出土遺物

図版31 摺躰山遺跡

(19) 富山遺跡 (平成元年度登録)

所 在 地 山形県寒河江市大字谷沢字富山

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 平成 6 年 8 月 25 日

起 因 事 業 東北横断自動車道酒田線建設（寒河江工事区）

遺 蹤 環 境 J R 左沢線柴橋駅北西約 1 km の丘陵の南側緩斜面に立地する。標高は約 195 m を測る。旧石器時代の遺跡として登録されている。

試 挖 状 況 路線内に 12箇所の試掘区を設定し人力で地山まで掘り下げ、遺構・遺物の分布状況を探った。

調 査 結 果 遺跡は、現地の地形・遺物の散布状況から東西 150m × 南北 100m の範囲と推定されていた。今回は高速道予定地のうち遺跡範囲とされる緩斜面部分を中心に調査を実施した。

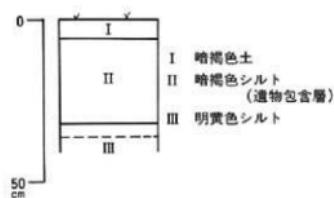
その結果、12箇所の試掘区 (TP) のうち、TP 5～10・12 で大量の石器剝片及び石核とみられる石器等が出土した。出土層位は、いずれも表土直下の暗褐色土から下層の赤褐色粘土上面である。土器は全く出土していない。なお、TP 8 北側については、調査時にブッシュとなっていたため、試掘は実施していない。遺跡範囲は、センター杭 73 付近を南限とし、未調査の北側尾根部分まで（東西 180m × 南北 150m 程）と推測される。



第28図 富山遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP4土層断面（東から）



TP6土層断面（東から）



出土遺物

図版32 富山遺跡

3 立ち会い調査の概要

(1) 大坪遺跡 (遺跡番号2,110)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字大坪

調査員 長橋 至

調査期日 平成6年8月2日～4日

起因事業 県営ほ場整備事業月光川上流地区の排水路・埋設送水管等設置工事

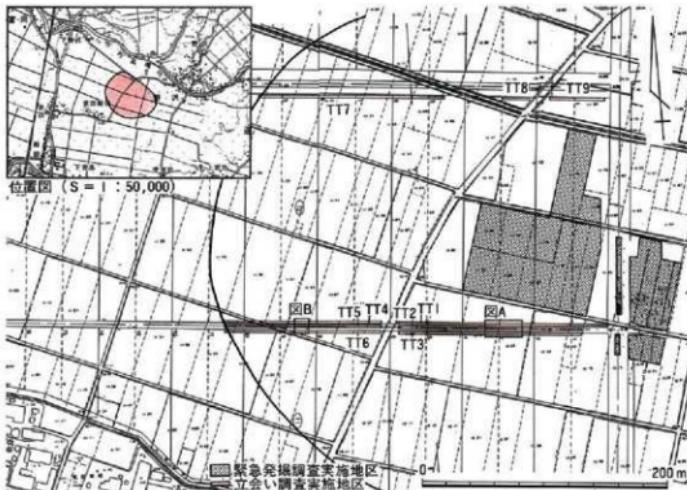
遺跡環境 月光川右岸の水田中に立地する。標高は11～12mを測る。本遺跡については、平成元年度・平成2年度・平成6年度に発掘調査が実施されている。

試掘状況 ほ場整備に伴う排水路・送水管路設置部分について立ち会い調査を実施した。

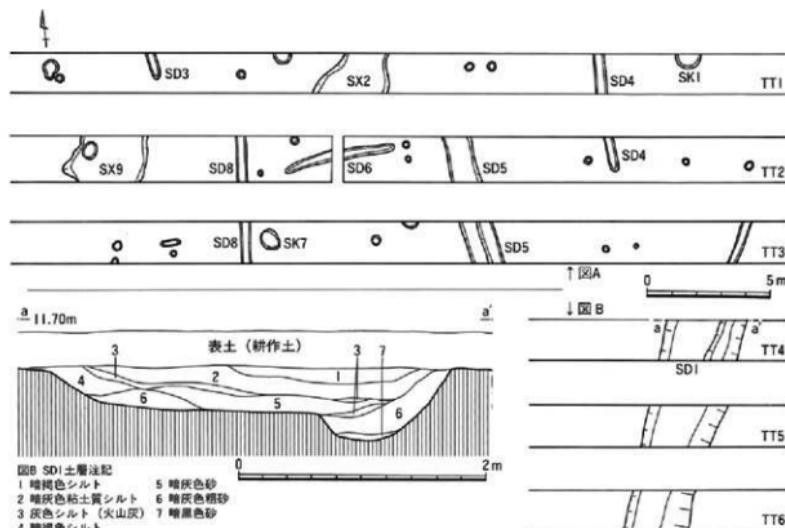
調査結果 TT1・2・3の中央部(図A)、TT4・5・6の中央部(図B)で遺構が検出された。遺跡北側のTT7～9では遺構・遺物は未検出であった。

(図A) 柱穴20・土壤6基・溝跡6条・性格不明遺構2が検出された。柱穴は調査区が限定されているため建物跡の構成は不明である。土壤はSK7で1袋、溝跡ではSD3で1袋、SD4で0.5箱、SD5で2袋出土した。いずれも、須恵器・赤焼土器片である。

(図B) 溝跡が検出された。幅3～3.5m・深さ40～55cm、覆土中から比較的多量の遺物が出土した。土器は赤焼土器の壊が多い。器形は底部切り離しは回転糸切り、口縁部径に比し底部径が小さい特徴をもつ。完形・半完形の土器は約15個体、破片を入れて須恵器片等を含め約1箱程出土した。曲物底部・箸等の木製品も若干出土している。



第29図 大坪遺跡概要図



第29図-2 大坪遺跡検出遺跡



遺跡近景・調査風景 (東から)



TT1・2・3検出遺構 (南から)



TT5 SD4 遺物出土状況 (南東から)



出土遺物

図版33 大坪遺跡

(2) 上高田遺跡 (遺跡番号2,080)・木戸下遺跡 (遺跡番号2,083)

所 在 地 上高田遺跡 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上家ノ前

木戸下遺跡 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字木戸下

調 査 員 上高田遺跡 名和達朗

木戸下遺跡 名和達朗・渋谷孝雄

調 査 期 日 立会い調査 上高田遺跡 平成6年7月19~22日

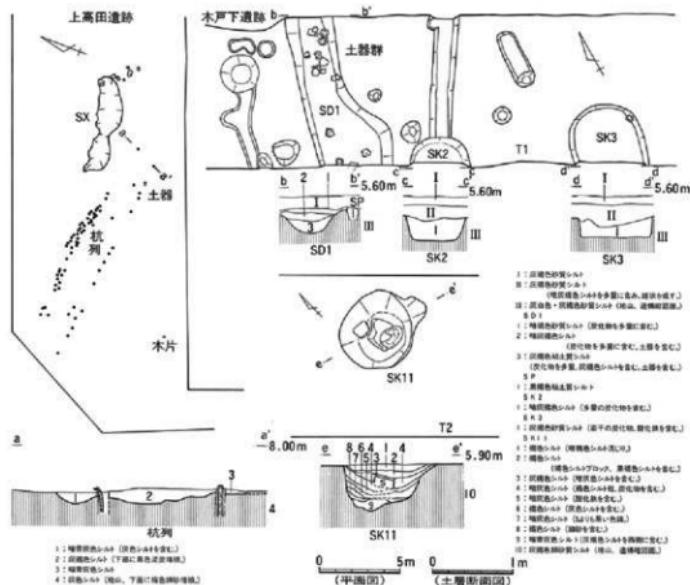
木戸下遺跡 平成6年7月22日~8月9日

起 因 事 業 県営は場整備事業 (月光川下流地区)

遺 跡 概 要 両遺跡は、遊佐町の北部、富岡地区に位置する。JR羽越本線西側、北流する高瀬川左岸に隣接する平地に立地する。上流部から上高田遺跡、木戸下遺跡と、標高8~6mに隣接して分布する。2つの遺跡とも県教委と並行に鶴山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

上高田遺跡は、杭列とピット群が検出された。杭列は、ほぼ真北に直交する方向に幅2m、長さ13mに2列に延びる。センターの調査結果、地盤の柔らかい部分を整地した道路跡であることが明らかになった。時期は、出土遺物から中世期の所産以降と考えられる。

木戸下遺跡は、トレチ主体の調査で部分的に遺構・遺物が検出され、T1西端では、溝跡に伴い平安時代の一括土器が確認された。



第30図 上高田遺跡・木戸下遺跡検出遺構



第31図 上高田遺跡・木戸下遺跡概要図



上高田遺跡近景（南西から）



道路跡・杭列（西から）



道路跡・杭列土層断面



出土遺物



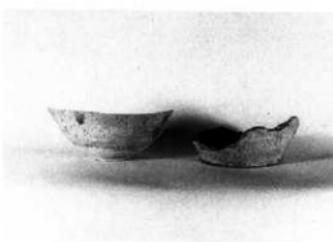
木戸下遺跡近景（北西から）



TT1調査状況（北西から）



TT2・SK2（南から）



出土遺物

図版34 上高田遺跡

(3) 古屋敷遺跡 (遺跡番号2,136)

所 在 地 山形県鶴岡市遊佐町大字吉出字古屋敷

調 査 員 渋谷孝雄

調 査 期 日 平成6年8月3~10日 (実質5日間)

起 因 事 業 県営ほ場整備事業 (月光川下流地区)

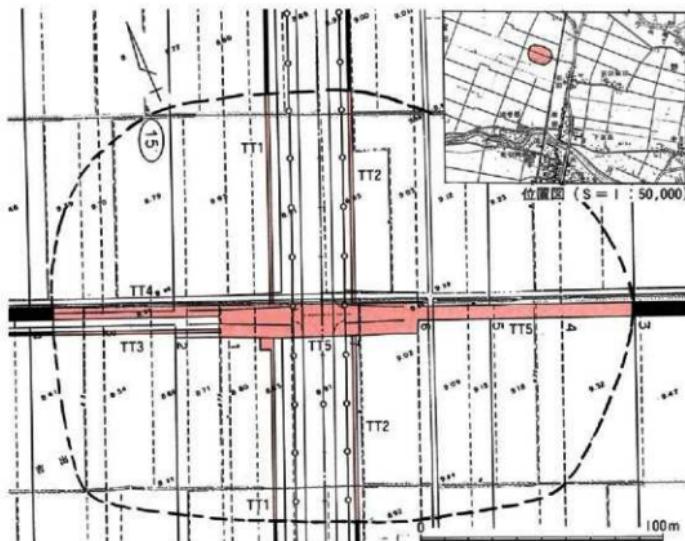
遺 跡 環 境 JR羽越本線遊佐駅から北に約1.3kmに位置し、月光川と高瀬川に挟まれた沖積平野に立地する。地目は水田となっており、標高は9m前後を測る。

調 査 状 況 県営ほ場整備事業によって破壊されることとなる用・排水路、農道部分の表土 (TT 1~5) を重機で除去し、検出した遺構の精査・記録を行った。

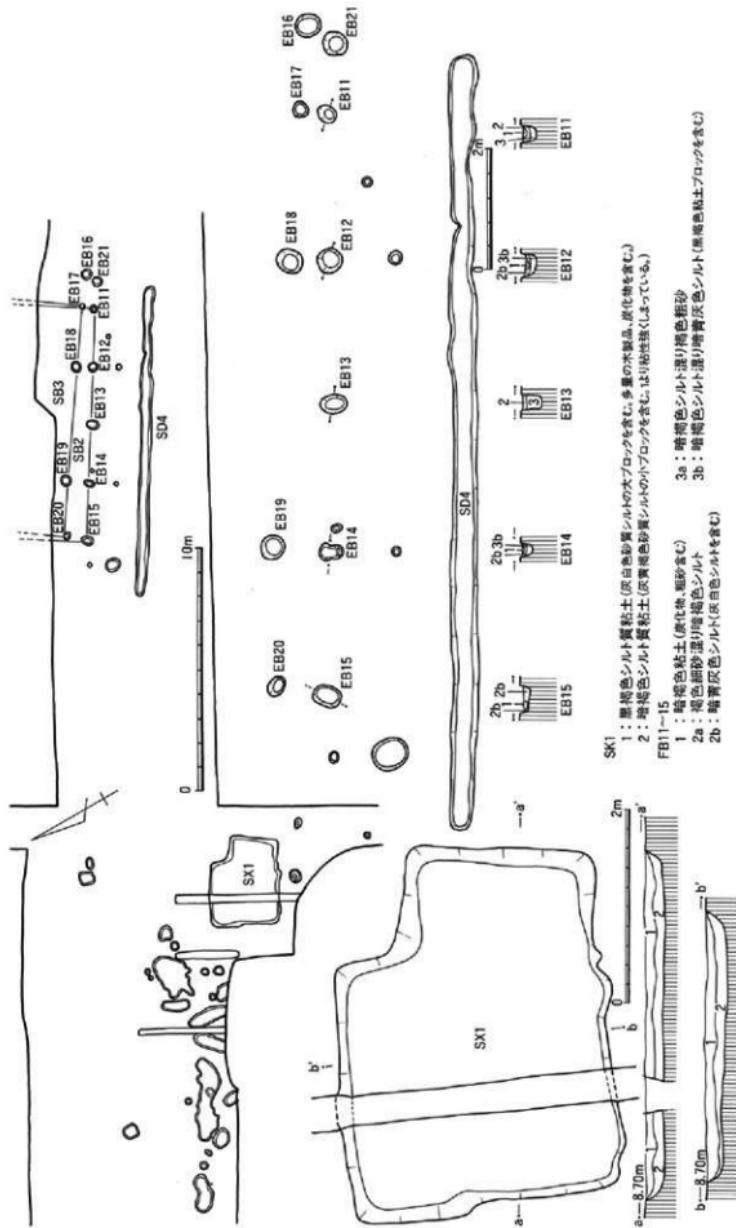
調 査 結 果 TT 5を中心とした周辺のトレンチで、遺構と遺物が検出された。遺物には須恵器、赤焼き土器等の平安時代のものと、中世陶器、木製品、金属製品等中世の所産と考えられるものがある。竪穴状の落込み S X 1や掘立柱建物跡 S B 2、3は中世の遺構であり、平安時代の遺構は確認できなかった。

S X 1は東西3.6m、南北2.8m、深さ20cmの竪穴状の落込みで箸、下駄等の木製品と鎌が出土した。

S B 2、3の掘立柱建物跡は、いずれも南面柱列のみの調査にとどまった。S D 4は掘立柱建物跡の柱列と平行であり、関連する遺構であろう。



第32図 古屋敷遺跡概要図



第33回 古墳跡遺跡検出遺構



遺跡近景及びTT2全景（北から）



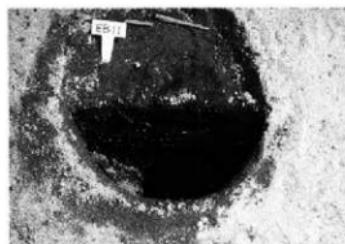
SXR検出状況（西から）



SXI土層断面（南から）



SXI完掘状況（西から）



振り方EBII土層断面（南から）



據立柱建物跡、溝跡（南西から）



出土遺物



出土遺物

図版35 古屋敷遺跡

(4) 北目長田遺跡・地蔵田遺跡・櫛待遺跡・堂田遺跡

遺 跡 名 北目長田遺跡（平成3年度登録）山形県鮎海郡遊佐町大字北目字長田
地蔵田遺跡（遺跡番号 2,092 平成4年遺跡範囲修正）同大字当山字上山崎
櫛待遺跡（平成3年度登録）山形県鮎海郡遊佐町大字北目字櫛待
堂田遺跡（遺跡番号 2,085）山形県鮎海郡遊佐町大字北目字堂田

調 査 員 長橋 至

調査期日 平成6年7月19日～22日・26日～29日

起因事業 県営ほ場整備事業高瀬川地区の用排水路・埋設送水管路設置工事

遺跡環境 遊佐町北部、庄内高瀬川右岸の水田に立地する。遺跡は隣接している。

調査結果

1 北目長田遺跡

国道345号線の北側に平行する線形で調査を実施した。TT1(平成6年度緊急調査実施地区西端から西へ4m地点)で幅60cm、検出面からの深さ5cm程の東西へ延びる溝跡が1条検出された。遺物は、この溝跡からは出土していない。TT1の遺物包含層から約1箱の須恵器・赤焼土器片が出土している。また、TT2-1ではSD1溝跡から須恵器・赤焼土器片が0.5箱程、小土壤から1袋程出土している。これら遺物の時期は、土器の形態等から多くが9世紀中頃のものと考えられる。

2 地蔵田遺跡

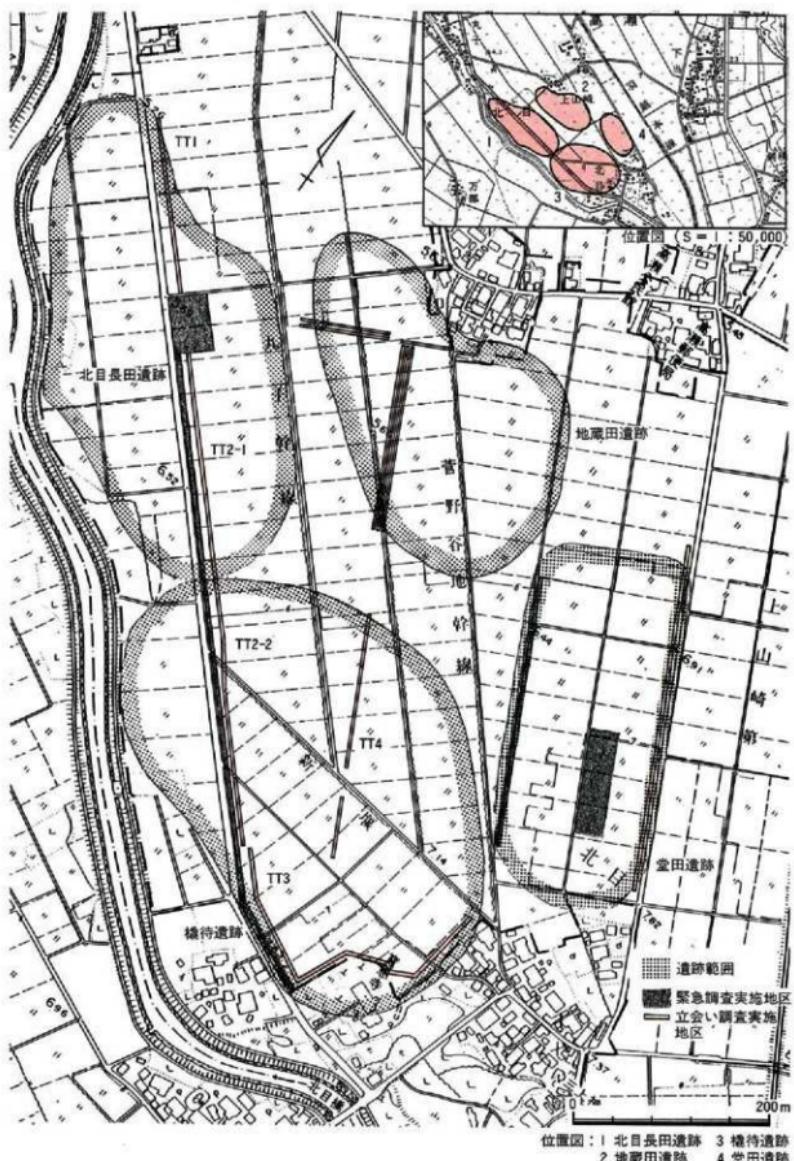
遺跡南西部にはほぼT字形の線形で調査を実施した。平成5年度には遺跡西端部でも水路等による立ち会い調査を実施しているが、今回同様、遺構・遺物は未検出であった。遺跡範囲の中央部に何らかの遺構が存在するものと推測される。

3 櫛待遺跡

国道345号線北側、北目長田遺跡TT2-1の東側延長及び寶恩寺西側を巡る線形で調査を実施した。遺構はTT2-1東端部で性格不明の落ち込み(SX4)、SK1土壤が検出された。また、遺跡中央部のTT4の新堰寄りでも性格不明の落ち込み遺構が検出された。遺物は、SX4で須恵器・赤焼土器片0.5箱、SK1で赤焼土器片1袋、TT4の不明遺構で0.5箱の須恵器・赤焼土器片が出土した。TT3の寶恩寺周辺部では遺構・遺物は検出されなかった。

4 堂田遺跡

北目集落と高瀬集落を結ぶ道路南側に道路に平行する線形で調査を実施した。平成6年に緊急調査がおこなわれた地区の北側となる。調査の結果、遺構・遺物は今回の調査では未検出である。



第34図 北目長田・地藏田・橿待・堂田遺跡概要図



北目長田・穢待遺跡近景（西から）



北目長田遺跡（TT1）溝跡（東から）



北目長田遺跡（TT2）検出遺構（南東から）



穢待遺跡（TT3）検出遺構（南から）



穢待遺跡（TT3）SX2（南から）



北目長田遺跡出土遺物



北目長田遺跡出土遺物



穢待遺跡出土遺物

図版36 北目長田・地蔵田・穢待・堂田遺跡

(5) 家根合遺跡 (遺跡番号1,706)

所 在 地 山形県東田川郡余目町大字家根合字五輪塚

調 査 員 長橋 至

調 査 期 日 平成6年7月14日・15日

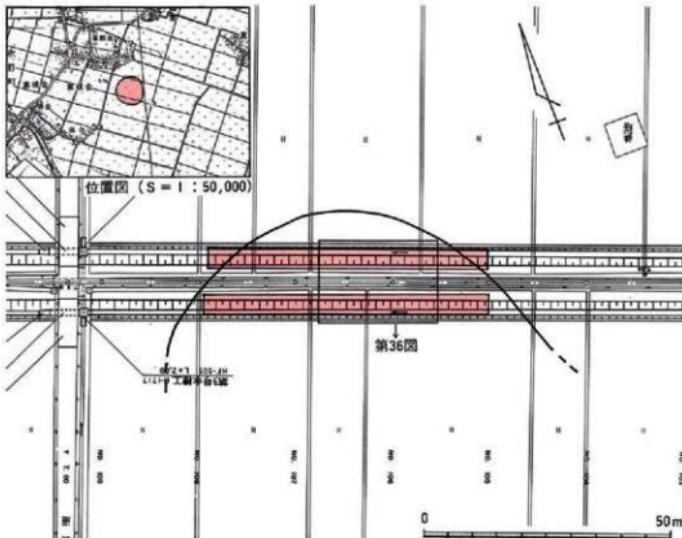
起 因 事 業 一般農道整備事業 (余目南部2期)

遺 蹤 環 境 余目町家根合地区南東500m、京田川右岸の自然堤防上に立地する。遺跡全域が水田である。標高は5.7mを測る。遺跡の中心は、今回の調査対象地区的南側となる(昭和20年代の耕地整理時に平安時代の土器大量に出土)。

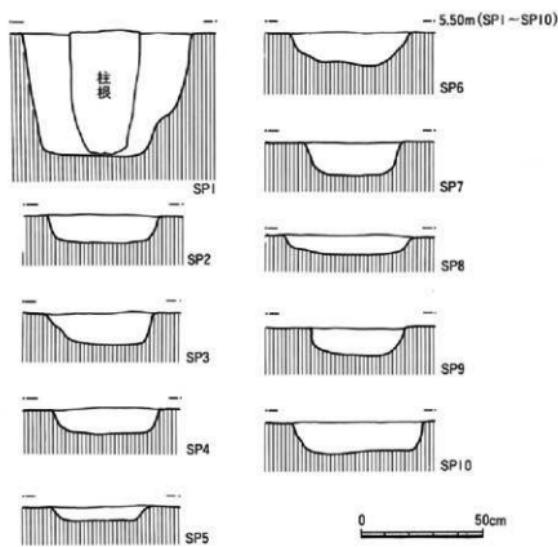
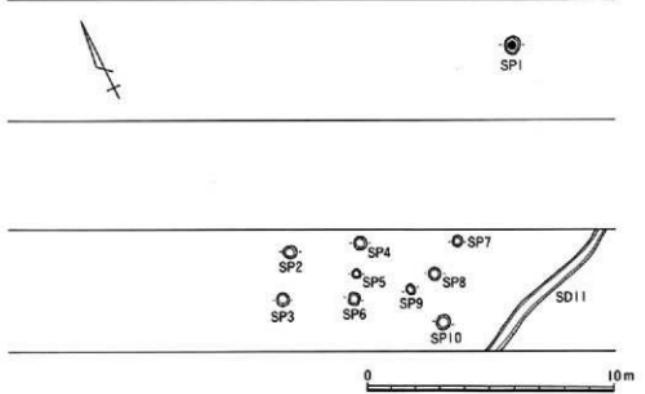
調 査 状 況 本遺跡については、平成4年11月・平成5年11月に同事業にかかる試掘調査を実施している。今回は試掘調査の結果を基に、遺構の存在が予想される部分について重機で表土を除去し立ち会い調査を実施した。

調 査 結 果 農道予定部分のうち、現水路を除く部分について調査した。遺構は、柱穴が10基、溝跡1条が検出された。遺物は今回出土しなかった。

柱穴は、南側トレンチで9基(S P 2~10)が集中して検出された。径は35~55cm、深さは検出面から10~15cmを測る。覆土は1層、柱根・アタリは未確認である。北側トレンチのS P 1は掘り方径65cm、深さ50cmで径30cmの柱根が検出された。以上により、今回の調査区では柱穴等から建物跡の構成はできなかったが、本遺跡に大型の掘立柱建物跡が存在することが予想される。



第35図 家根合遺跡概要図



SP1～10の覆土は、暗褐色粘質土に若干の炭化物・地山小ブロックを含む単一層。

第36図 家模合遺跡検出遺構



柱穴掘出状況（西から）



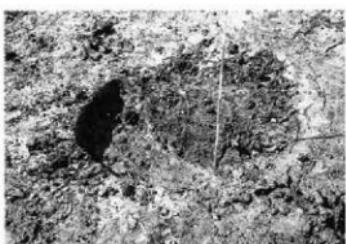
柱穴完掘状況（西から）



柱穴完掘近景（西から）



柱穴完掘状況（東から）



SP2



SP8



SP1柱根



SP1柱根先端

図版37 家根合遺跡

(6) 塔の腰遺跡 (昭和63年度登録)

所 在 地 山形県鶴岡市大字井岡字塔の腰

調 査 員 B調査 渋谷孝雄

立会い調査 名和達朗

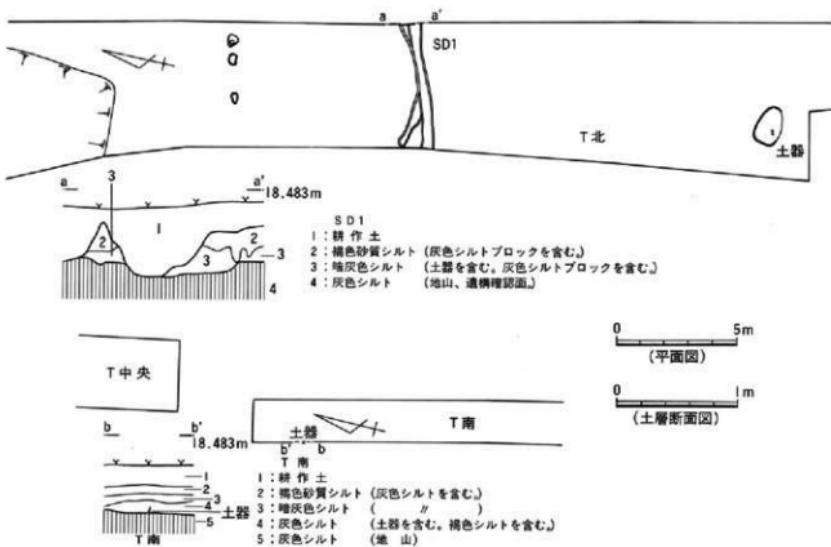
調 査 期 日 B調査 平成6年5月19日

立会い調査 平成6年6月28~30日

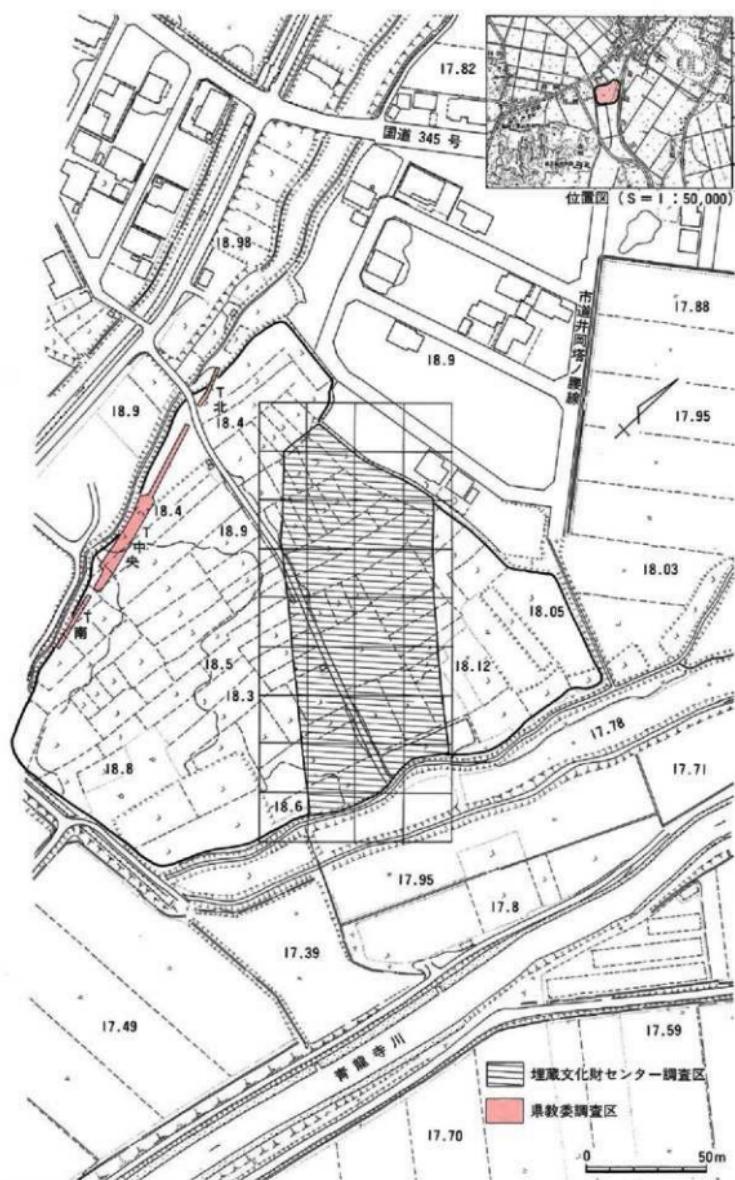
起 因 事 業 国道345号道路改良事業

遺 蹤 概 要 遺跡は、鶴岡市街から南西、井岡地区の国道345号南側の畠地に位置する。南側は、北東方向に流れる青龍寺川左岸に隣接する。標高は18mの河岸段丘上に立地する。調査区域の西側は水路が走り、青龍寺川との間の広がりが遺跡の範囲である。面積は、東西200m・南北181mの32,000m²の広がりをもつ。6年度は、山形県埋蔵文化財センターが東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）に係る部分について発掘調査を実施した。

今回の調査は、センター調査区域外の西側が国道345号に係るためB調査を行った結果、遺跡の西端部に入り、遺構・遺物の分布密度が低いことから立会い調査を実施したものである。重機により北・中央・南とトレンチを入れた後、面削りにより遺構・遺物の確認を行った。遺構は、中央トレンチ検出の溝状遺構及びピット以外明瞭な検出はできず、しかも搅乱がかなり入っている状況である。遺物は、各トレンチから平安時代の土器小片が少量出土したが全体に散発的であり、遺跡の周辺部を想定するものである。



第37図 塔の腰遺跡検出遺構



第38図 塔の腰遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TT1調査状況（北西から）



TT2全景（北西から）



TT2全景（南から）



TT2検出溝跡（東から）



TT3全景（北西から）



TT3土層断面



出土遺物

図版38 塔の腰遺跡

(7) 上荒谷遺跡（遺跡番号232）

所 在 地 山形県天童市大字荒谷字上荒谷

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年6月14、23・24日、10月11・12日

起因事業 主要地方道天童・中山・大江線、流域下水道整備事業

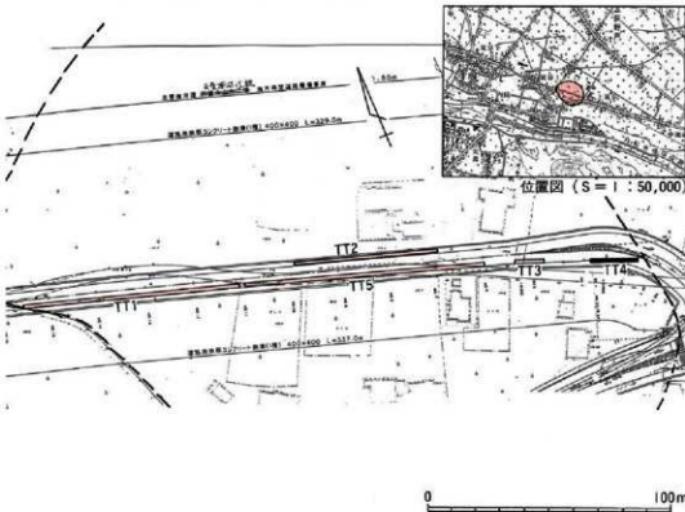
遺跡環境 JR奥羽本線天童駅から南東に約6km、立谷川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は畑地、果樹園、宅地となっており、標高は172mを測る。

調査状況 6月14日の時点ではTT1、2を含む道路拡幅部分の表土と包含層の一部が地権者によって除去されていたため、一部で縄文時代の遺物が散乱しており、破壊された可能性も考えられた。6月23・24日の調査で、下水管埋設予定地（TT1、3、4、）の残った表土の除去と包含層の掘り下げを行った。その結果、遺構は残っていることが確認された。この調査ではTT2の試掘も行い、検出した遺構の精査と記録を行った。

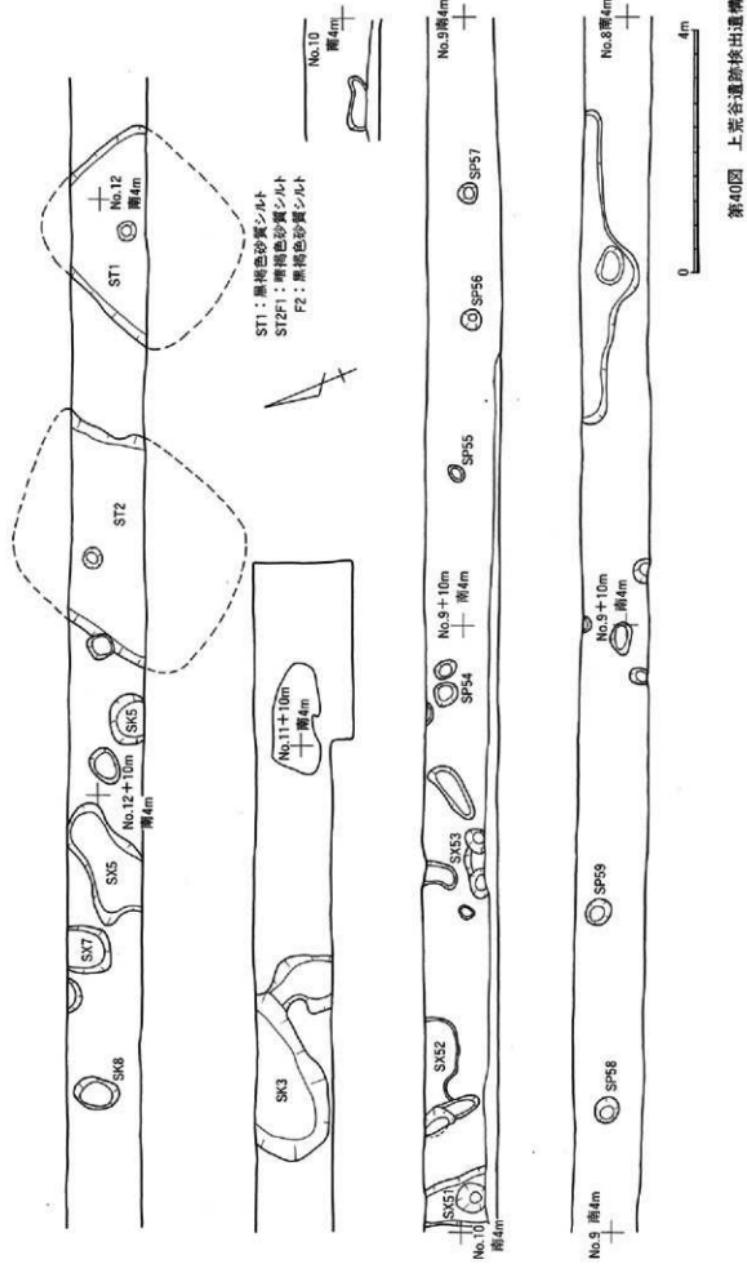
10月の調査では現道下のTT5の遺構検出、精査、記録を行った。

調査結果 TT1、2、3、5で縄文時代の土器と石器が出土し、TT1で竪穴住居跡2棟のそれ一部と、土壤、落込み、TT5で柱穴、落込みを検出した。遺物は縄文時代前期前半の大木1～2b式土器と石鎌、石匙等の石器が多数出土した。

平成7年度に道路部分の緊急発掘調査が行われる予定である。



第39図 上荒谷遺跡概要図



第40図 上荒谷遺跡検出遺構



遺跡近景（西から）



土層表面（南から）



TT1・ST1接出状況（北東から）



TT1・ST1床面検出状況（北東から）



TT1・ST1発掘状況（北東から）



TT1・ST2発掘状況（北西から）



出土遺物



出土遺物

図版39 上荒谷遺跡

(8) 大浦 b 遺跡 (米沢市遺跡番号380)

所 在 地 山形県米沢市中田町字大浦

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年6月28日～7月1日 7月28日～8月2日 9月12～17日

起因事業 一般県道米沢浅川高畠線まちづくり総合事業道路改良工事

遺跡環境 米沢市役所から北北東に約2km、掘立川左岸の河岸段丘上に立地する。地目は宅地、道路、畑地となっており、標高は233mを測る。

調査状況 6月28日から7月4日までの拡幅部分及び現道部分の試掘調査で、遺物は殆ど出土しなかったが、古代から近世までの遺構が存在することが明かとなった。しかし、交通量が多く、しかも幹線道路であることから通行止めの措置はとれないとのことで、現道下については設計変更で路床入れ替えを遺構確認面の上にとどめることを条件に、拡幅部分に限って記録保存措置をとることとなった。

この協議により、拡幅部分の調査を2期に分けて実施することになり、7月28日から8月2日までの実質5日間で、TT1、2、3の各トレンチの記録保存調査を行い、9月12～17日の実質5日間で、TT4、5の調査を行った。なお、TT2とTT5の間は過去の防火水槽工事により破壊されたことが明かとなったので調査対象から除外した。

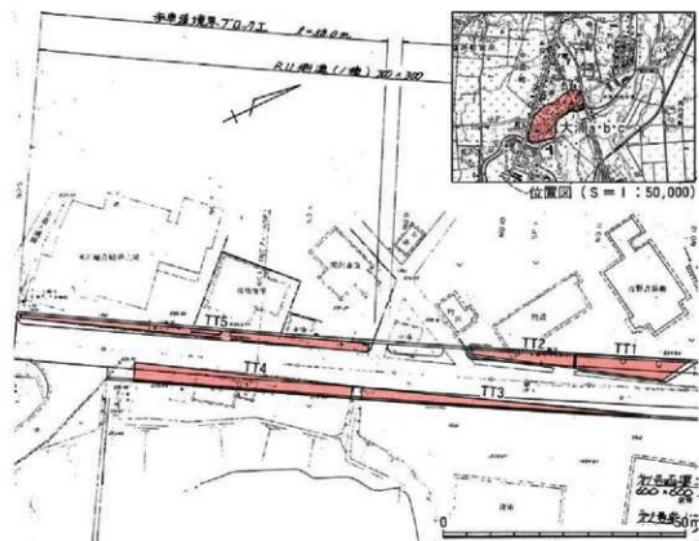
調査結果 TT1——トレンチの北半で中世から近世の所産と考えられる径20cm前後、深さ15～30cmの約20基の柱穴群が検出された。また、径2m程の深い土壌も検出されたが、遺物はなかった(第43図)。

TT2——北半部で古代の掘り方が6基検出された。このうち4基は掘立柱建物跡を構成するものと考えられ、SB1として登録した(第42図)。EB11、12間、12、13間は1.7m等間で、各掘り方は1辺45～50cmの隅丸方形を基調としており、確認面からの深さ45～50cmを測る。掘り方からの遺物の出土はないが、圓堀施設を持つ大浦b遺跡の掘立柱建物跡の掘り方と類似するところから、奈良時代の所産と考えて良いだろう。SD2はこの建物跡を切っている。EB14、15も同様な規模を持つ掘り方であるが建物としての把握はできなかった。また、西半部では5基の柱穴を検出した。

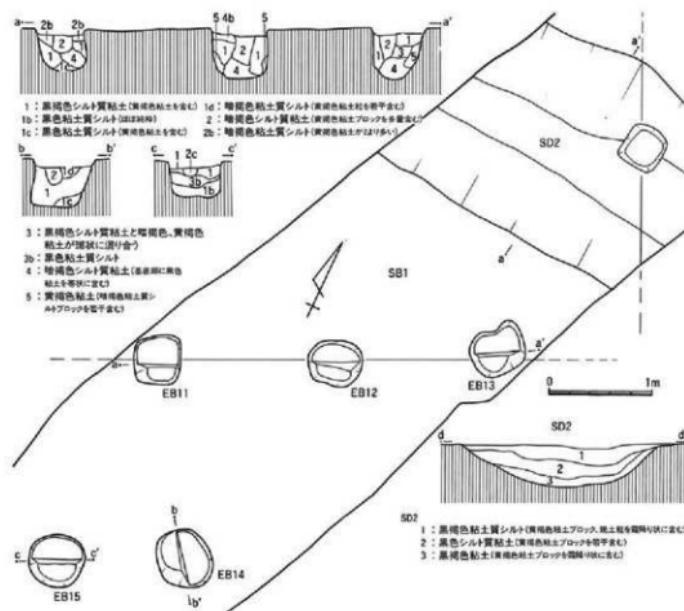
TT3——トレンチ中央部と西端部で6基の土壌を検出した(第43、44図)。いずれも、部分的な検出となっている。SK6の堆積土は極暗青灰色シルト、SK7、8は共に黒色粘土に灰褐色粘土が混入する土層となっている。

TT4——TT5に連続すると考えられるSD21とこれに直交するSD22と時期不明の柱穴群が検出された(第44図)。

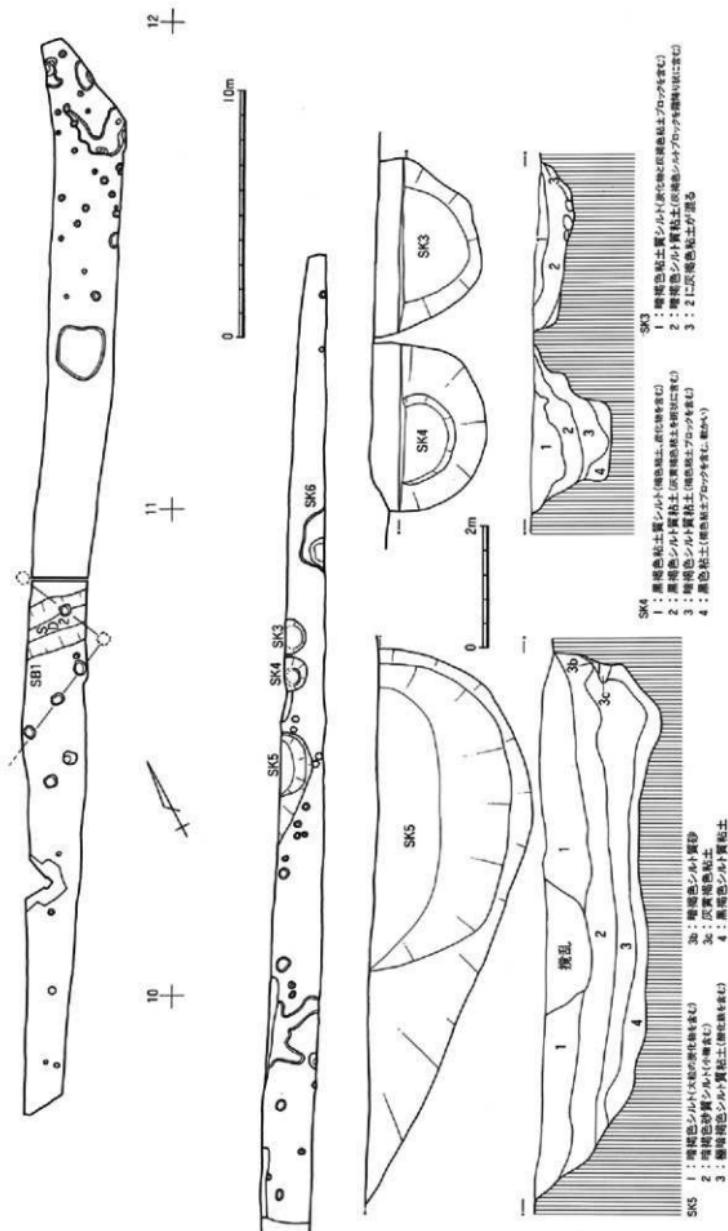
TT5——時期不明の柱穴とトレンチ西端部で幅2.5mと推定されるSD23を検出した(第44図)。面精査中に土師器壺の破片1点が出土した。



第41図 大浦 b 遺跡概要図

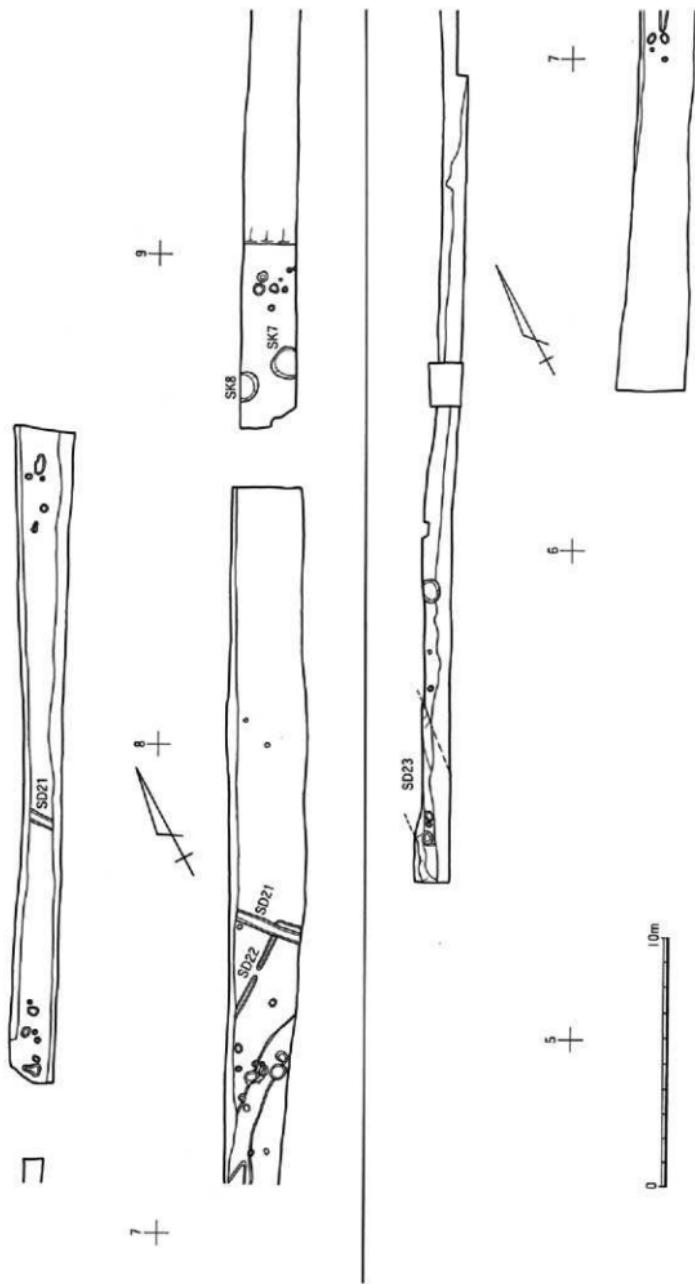


第42図 大浦 b 遺跡検出遺構(i) TT2検出SB1



第43図 大浦b地盤検出透構(2)TT1, 2, 3検出透構

第44図 大浦 b 遺跡検出遺構(3) T3・4・5検出構





遺跡近景（北東から）



I区実掘状況（北東から）



2区振り方群、SD2全景（南西から）



2区EBI1土層断面（南から）



2区EBI3土層断面（南から）

図版40 大浦 b c 遺跡(I)



2区EB11・12・14・15完掘（北から）



3区東半部完掘状況（南西から）



3区中央部完掘状況（南西から）



3区西部完掘状況（東から）



3区SK3土層断面（南から）



4区SD21他完掘（北から）



5区ピット群完掘状況（北西から）



出土物

図版41 大浦 b c 遺跡(2)

(9) 黒藤館跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県西置賜郡白鷗町大字畔藤字館ノ内

調査員 名和達朗

調査期日 立会い調査 平成6年7月12~15日

起因事業 一般県道南陽白鷗線道路改良事業

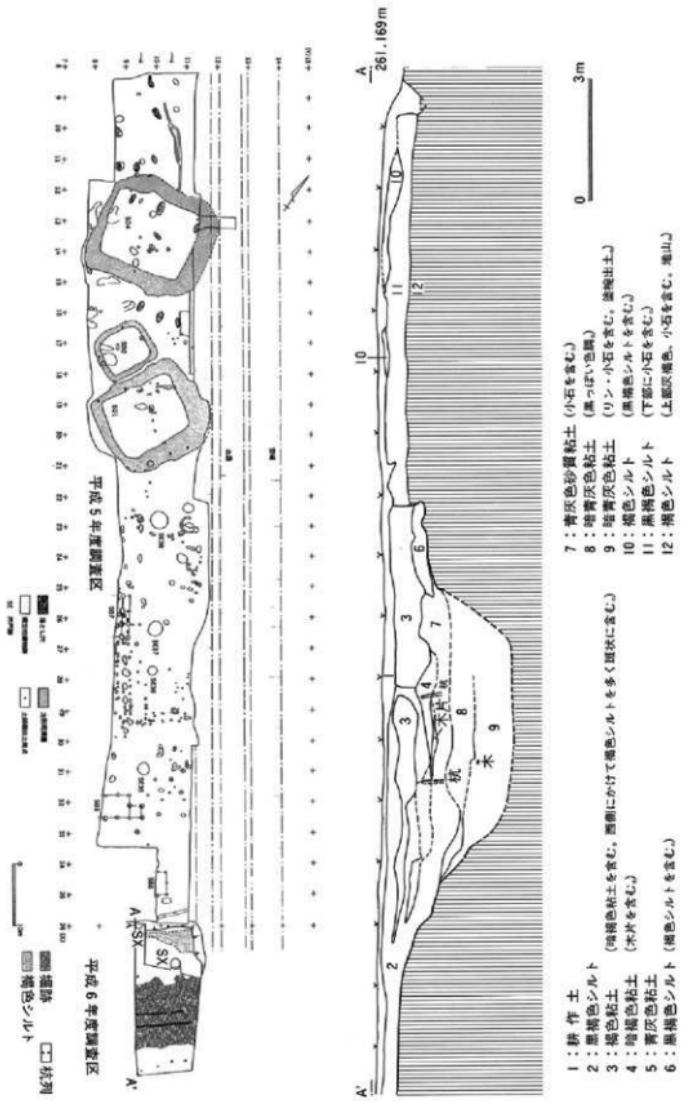
遺跡概要 遺跡は、荒砥地区の南西側、国道287号と畔藤農免農道間の畠地・宅地に広がる河岸段丘上に立地する。東西・南北約170mの範囲で、標高は、198~202mを測る。館跡北辺部に高さ2.2m、上端1.4m、基底部6.6mの大きさの土壘とその周囲を巡る空堀がみとめられる。平成5年度に山形県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ、縄文・古墳・平安時代・中世と、各時代にわたる成果が得られた。

今回の調査は、前年度未調査の区域で、館跡の東辺部堀跡検出を想定に実施した。重機で表土を除去したところ、調査区西側に黒褐色シルト層上に褐色粘土の混じった帶状の広がりとその東側に幅11.5m、深さ3.2mの溝跡が平行して確認された。土壘の痕跡と堀跡と考えられる。トレーナを入れ、上部層から木くずやガラス瓶が多く出土する埋め土と水路に伴う杭列(地籍図)、下部層からは館に関連すると考えられる塗椀が1点出土した。



第45図 黒藤館跡概要図

第46図 黒藤館跡出土遺構





杭列（南から）



調査区全景（南東から）



調査区全景（北西から）



堀跡土層断面



出土遺物

図版42 黒藤館跡

(10) 八幡2遺跡 (遺跡番号1,482)

所在 地 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝字八幡

調査員 長橋 至

調査期日 平成6年9月6日~7日

起因事業 主要地方道長井白鷹線道路改良

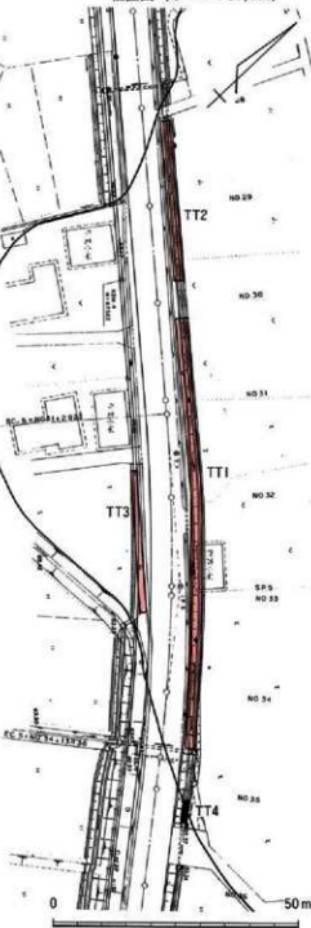
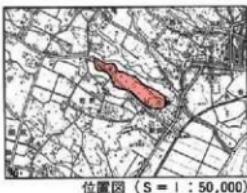
遺跡環境 フラワー長井線鮎貝駅の北西約300m、周辺の水田よりやや高い畑地等に立地する。遺跡範囲は推定東西800m・南北180m、標高は今回調査対象部分で83m。

調査状況 現道拡幅工事のため、拡幅部について幅2.7mのトレーナーを設定した。重機で表土を除去後、検出した遺構等について記録保存をした。

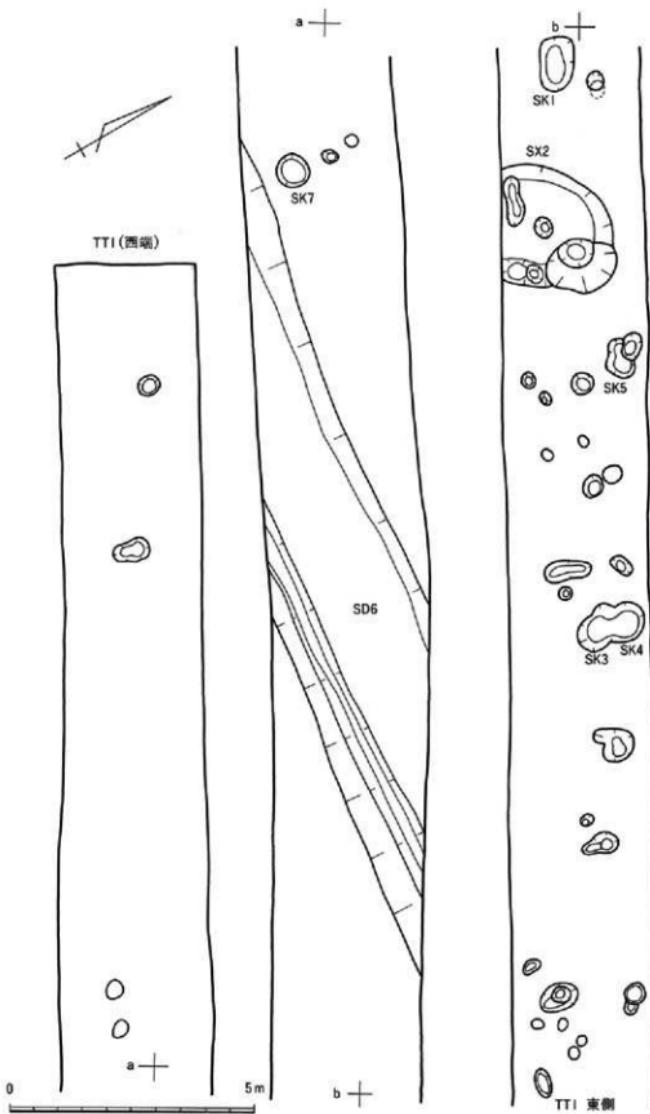
調査結果 3本設定したトレーナーのうち、TT1で柱穴約50・土壤6基・溝跡1条が検出された。TT2では柱穴3・土壤2基、TT3では柱穴7・土壤1基が検出された。本報告では遺構の集中するTT1について図示した。TT1・3では、遺物は出土していない。従って、検出された遺構の時期は特定できない。また、TT1中央部のSD6は幅3m・深さ70cm程、覆土の状態から比較的新しい時期の所産と考えられる。SK1は深さ60cm、SX2は径2.5m・深さ30cmを測る性格不明の遺構である。TT2の小土壤では縄文時代の土器片・石器剝片が数点出土した。

今回の調査対象地は遺跡の南西端部にあたる。遺跡の中心部は北東方向の微高地と考えられる。

調査終了後、現地では工事に着手した。



第47図 八幡2遺跡概要図



第48図 八幡 2 遺跡検出構造



TT1 東側発掘状況（東から）



調査風景（東から）



TT1 中央部発掘状況（西から）



SD6発掘状況（西から）



出土遺物

(11) 獅子岩城跡（昭和63年度登録）

所在 地 山形県東田川郡朝日村大字熊出字仲台27-14

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年5月17・18日

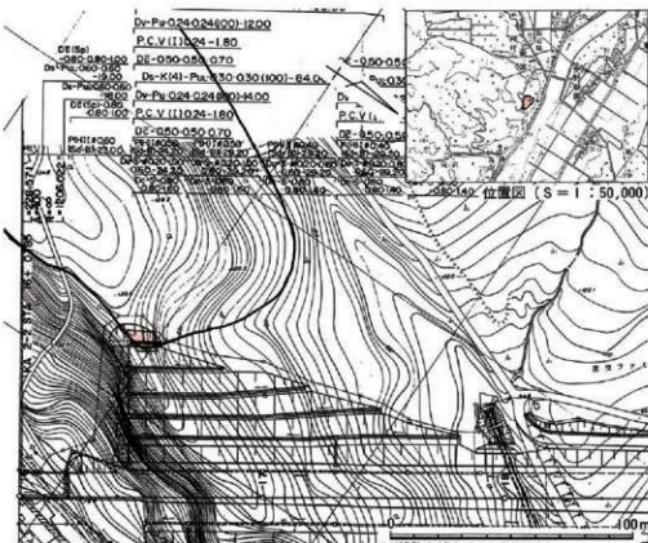
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事（撤引工事区）

遺跡環境 朝日村役場の北東約1.5km、赤川左岸の丘陵端に位置する。

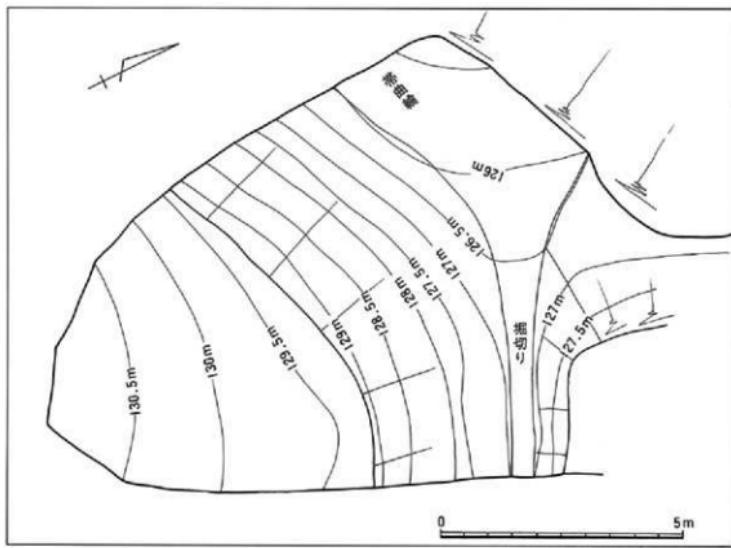
主郭部は赤川神社境内で、今回の調査区は主郭部の北端部に位置する。標高は130m前後を測る。

調査状況 調査対象区は主郭部の北端に位置し、調査前の所見では、峰の稜線を浅い堀切で断ち、この堀切は西側で主郭部を取り巻く帶曲輪に連続しているように観察された。表土を重機で除去し、手掘りで地山面を検出後、平面実測を行って、調査を終了した。

調査結果 堀切は深さ約1mで、南北に連なる峰を断ち切っている。堀の底部から主郭部への斜面は急である。堀切の底面は調査前の所見のとおり、西側で主郭部を取り巻く帶曲輪に連続している。この帶曲輪からは調査区外で縦堀が数本切られている。



第49図 獅子岩城跡概要図



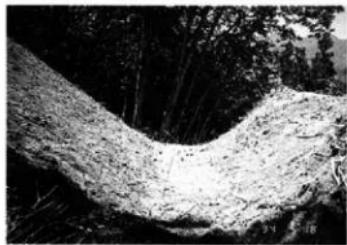
第50図 獅子岩城検出造構



調査区近景（西から）



調査状況（南から）



振切り完掘（東から）



調査終了（南から）

図版44 獅子岩城跡

(12) 岡村遺跡 (昭和63年度登録)

所在 地 山形県田川郡朝日村大字熊出字岡村

調査員 長橋 至

調査期日 平成6年4月26日～28日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設（繩引工事区工事用道路建設）

遺跡環境 赤川左岸、岡村集落の南側の丘陵部と平野部の境界に立地する。標高は約76mを測る。縄文時代の集落跡である。

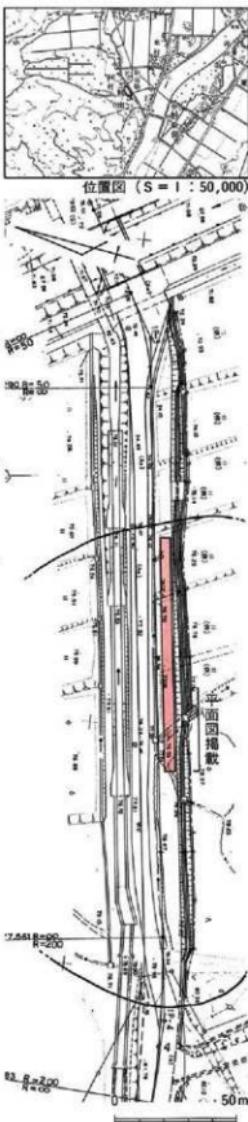
調査状況 現道拡幅工事のため、拡幅部について幅3.7mのトレンチを設定した。重機で表土を除去後、検出した遺構等について記録保存をした。

調査結果 遺跡西側は、平成5年度に実施した試掘調査の結果、遺構・遺物は希薄であるとの調査結果から今回の立ち会い調査から除外している。遺構が集中して検出されたのは、遺跡中央部であった。

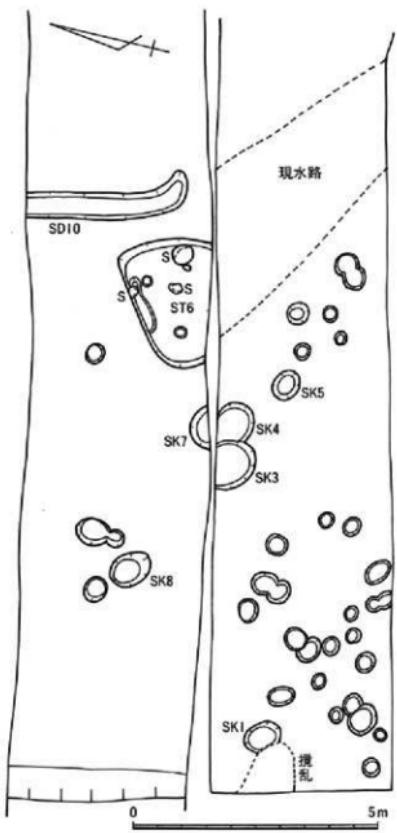
検出された遺構は、竪穴住居1棟、土塙6基、柱穴約30箇である。S T 6は、東西2.7m(南北は不明)のやや不整形の小規模な竪穴住居跡である。壁は検出面で25～30cm、2個の柱穴が確認された。覆土の上層で比較的大きな自然礫が出土している。SK 1・3・4・5・8はいずれも覆土は暗褐色シルト質で、若干の炭化物を含んでいる。

遺物は、縄文時代の土器・石器が出土した。S T 6の覆土から石鐵1点・石器剝片数点と共に早期末から前期初頭の土器が数点出土している。また、SK 7は焼土が覆土となっていたが、覆土中より中期末の土器が出土している。以上により、本遺跡は、縄文時代の数時期に営まれた遺跡であったことが明かとなった。

なお、本遺跡に隣接する仲台遺跡（平成5年度調査実施）との関連も検討する必要がある。



第51図 岡村遺跡概要図



遺跡近景（東から）



調査区全景（東から）



調査区西側（東から）

第52図 岡村遺跡検出遺構



ST6実掘状況（北から）



出土遺物

図版45 岡村遺跡

(13) 漆原遺跡 (昭和63年度登録)

所 在 地 山形県鶴岡市大字寿字漆原

調査員 長橋 至

調査期日 平成6年6月7日～10日

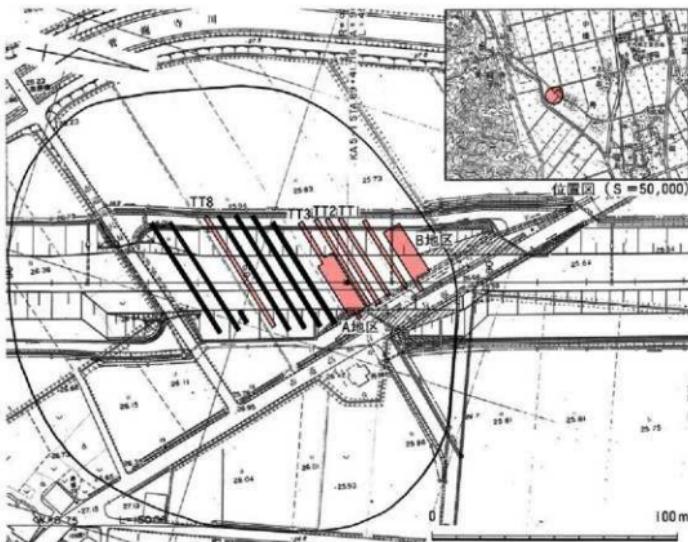
起因事業 東北横断自動車道酒田線建設（櫛引工事区）

遺跡環境 聖籠寺川右岸の水田中の微高地に立地する。遺跡範囲は東西300m・南北100m、標高は約26mを測る。

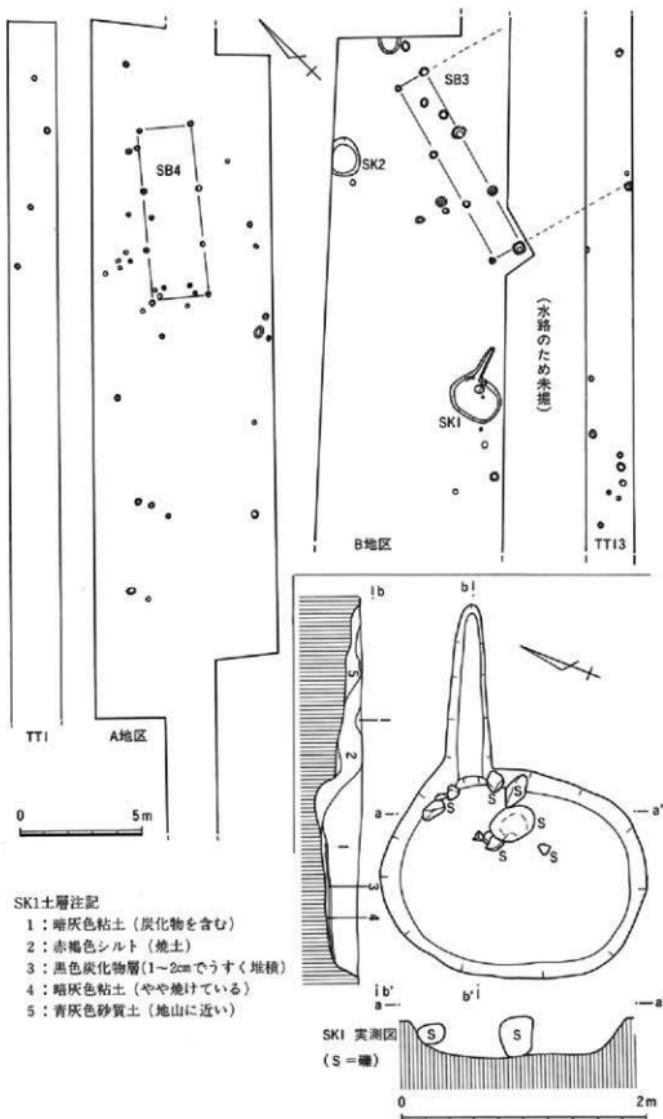
調査状況 路線内の遺跡部分について14箇所のトレンチを設定し、重機で表土を除去した。さらに造構・遺物の集中する地点を拡張し、検出された遺構・遺物について記録した。

調査結果 遺構の集中する地点は2箇所確認された。寿神社西側をA地区・遺跡北側の集中地点をB地区とした。

A地区では、柱穴の覆土・配置から1×3間のSB4掘立柱建物跡（柱間隔2~2.2m）のほか柱穴が約35検出された。径20~30cm、深さ10~30cmである。B地区とTT13ではSB3掘立柱建物跡の西側底部分が検出された。建物の全体については、現在使用中の水路等の関係で不明な点が残った。SB3の柱穴は底以外の柱穴では径30~50cm（アカリをもつ）とやや大型であった。SK1は煙道をもち焚口に礫を配し、覆土に焼土を含む土壤である。



第53図 漆原遺跡概要図



第54図 漢原遺跡検出遺構



遺跡近景（北東から）



A地区完掘状況（東から）



B地区完掘状況（東から）



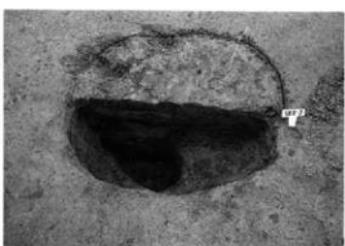
SK2土層断面（南から）



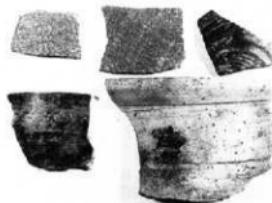
SK2土層断面（西から）



SK2完掘状況（西から）



SB3（EP2）土層断面



出土遺物

図版46 漆原遺跡

(14)亀ヶ崎城跡（遺跡番号2,071）

所 在 地 山形県酒田市亀ヶ崎1-3-60

調 査 員 渋谷孝雄

調査期日 平成6年6月7~10日

起因事業 山形県立酒田東高等学校体育館改築工事

遺跡環境 JR羽越本線酒田駅の南東約1kmに位置し、新井田川左岸の微高地上に立地する。標高は3~3.5mを測る。

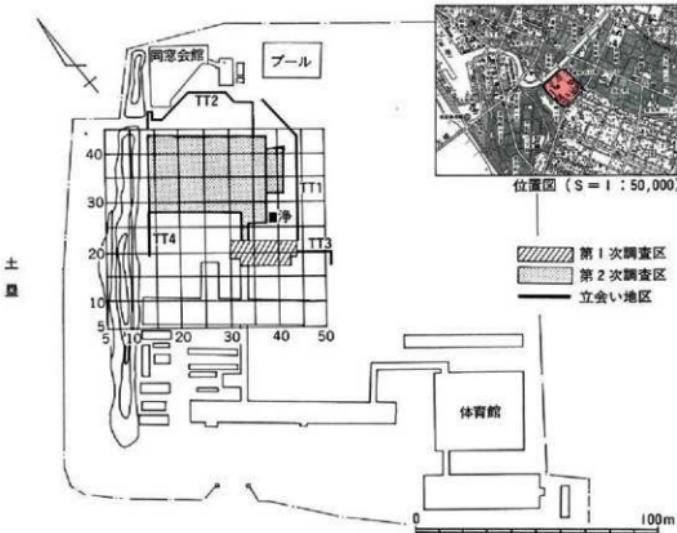
調査状況 調査対象区は平成5年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた体育館の周辺部にあたり、浄化槽、水道、電気等の埋管工事に伴う工事立会いである。TT1~4の4本のトレーナーの立会いと浄化槽部

調査結果 TT1~4の各トレーナーは工事範囲が近代以降の盛土の範囲内であったため、近世の亀ヶ崎城に関連する遺構や遺物は検出されなかった。

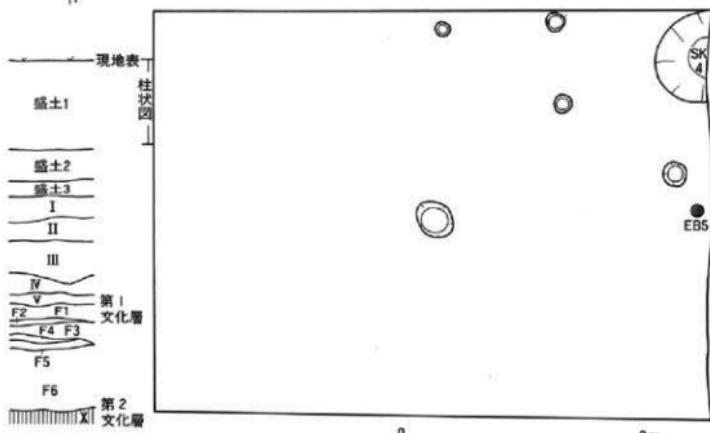
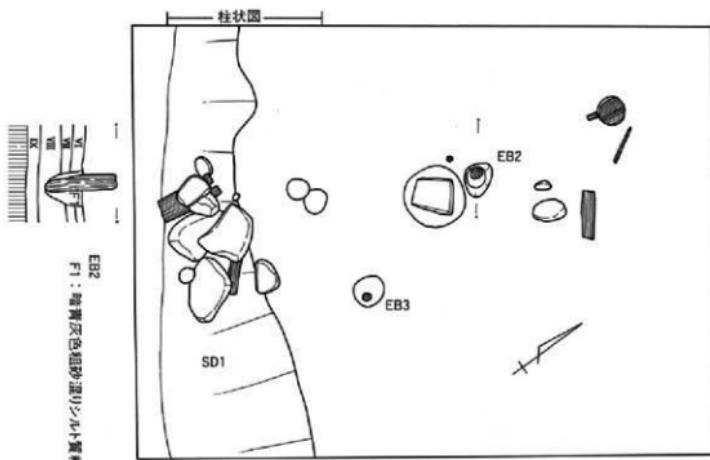
浄化槽部分では現地表のおよそ2m下のVI層上面と、2.6m下のX層上面の2枚の遺構面を確認した。

上層では柱根を持つ掘り方2基と礎石、おそらく廃棄された礎石と考えられる石や板材が含まれる溝跡が検出され、曲げ物底部等が出土した。下層では土壤1基と柱根1基、ピット数基が検出された。

上層、下層とも年代の決め手となるような遺物は出土しなかったが、埋文センターの調査は上層と関連するものと考えられる。



第55図 亀ヶ崎城跡概要図



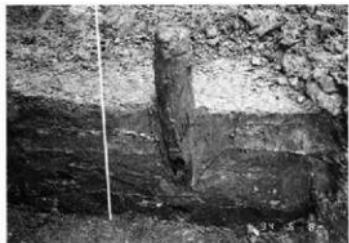
第56図 電ヶ崎城跡浄化槽部分検出遺構



浄化槽表土除去（北から）



浄化槽上層造構検出状況（北東から）



浄化槽上層柱根、堀り方土層断面（南から）



浄化槽内土層断面（東から）



浄化槽下層北半造構検出状況（南から）



浄化槽下層北半造構検出状況（南から）



出土遺物



出土遺物

図版47 龜ヶ崎城跡

III まとめ

平成 6 年度の遺跡詳細分布調査は、平成 7 年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業との調整を図ることを目的として実施した。また、事前の試掘調査の結果に基づく立ち会い調査も実施した。

調査遺跡は72遺跡を数え、そのうち16遺跡は新たに発見され、登録した遺跡である。また A 調査や B 調査により遺跡の範囲・位置・遺跡名の訂正（または抹消）が必要となった遺跡は 7 を数える。以下にそのリストを掲げてまとめとする。

1. 新規発見遺跡

1 石コロ遺跡	山形市上桜田字石コロ	平安時代か
2 鶯橋 B 館跡	南陽市大字露橋	中世
3 水上沢式山遺跡	米沢市大字市布字水上沢	縄文時代
4 上谷地 C 遺跡	米沢市大字川井字上谷地	奈良時代～中世
5 長者原遺跡	西置賜郡飯豊町大字小白川字長者原	縄文時代
6 新屋敷遺跡	西置賜郡飯豊町大字荻野字新屋敷	縄文時代
7 田代水上遺跡	寒河江市大字田代字水上	縄文時代
8 熊野館跡	西村山郡西川町大字熊野	中世
9 本合海上野遺跡	新庄市大字本合字海上野	旧石器時代
10 三滝 2 遺跡	最上郡真室川町大字川の内字上三滝	縄文時代
11 三滝 3 遺跡	最上郡真室川町大字川の内字上三滝	縄文時代
12 大滝上野遺跡	最上郡真室川町大字及位字上野	縄文時代
13 鶴田野 3 遺跡	最上郡鮭川村大字川口字鶴田野	縄文時代
14 門出遺跡	酒田市大字穂積字門出	平安時代
15 向田遺跡	酒田市大字本楯字向田	平安時代
16 二本松遺跡	田川郡羽黒町大字荒川字二本松	平安時代

2. 範囲・位置・名称の訂正を要する遺跡

1 細越遺跡	登録抹消（遺跡番号1,523）	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
2 作之巻遺跡	位置の訂正	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
3 川前楯跡	範囲の修正（遺跡番号833）	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
4 中谷地遺跡	範囲の修正	平成2年3月「分布調査報告書(17)」
5 梵天塚遺跡	位置の訂正	平成2年3月「分布調査報告書(17)」
6 土崎遺跡	範囲の修正	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
7 清水脇 2 遺跡	範囲の修正	平成6年3月「分布調査報告書(21)」

表一三 掲載遺跡位置図（2万5千分の1）索引

	遺跡名	地図名		遺跡名	地図名
1	大坪遺跡	吹浦	37	本合海上野遺跡	古口
2	上高田遺跡	吹浦	38	水上沢武山遺跡	米沢東部
3	古屋敷遺跡	吹浦	39	坂下遺跡	米沢
4	木戸下遺跡	吹浦	40	露橋B遺跡	羽前小松
5	榎持遺跡	吹浦	41	大浦b遺跡	米沢北部、簾ノ目
6	堂田遺跡	吹浦	42	大浦c遺跡	米沢北部、簾ノ目
7	地蔵田遺跡	吹浦	43	六角壇遺跡	赤湯
8	北目長田遺跡	吹浦	44	黒藤館跡	荒砥、長井
9	柳久瀬A遺跡	羽黒山	45	壇の前櫛跡	小国東部
10	門出遺跡	鶴北郡、羽黒山	46	長者原遺跡	手ノ子
11	向田遺跡	鶴北郡、羽黒山	47	新屋敷遺跡	荒砥、白山
12	鶴田野2遺跡	羽根沢温泉	48	八幡2遺跡	荒砥
13	鶴田野3遺跡	羽根沢温泉	49	下柳A遺跡	山形北部
14	下山遺跡	吹浦	50	川前櫛遺跡	海谷
15	二本松遺跡	羽黒山	51	清水脇2遺跡	延沢
16	尼子岩陰東地区	赤湯	52	黒森遺跡	酒田南部
17	家根合遺跡	湯野浜、藤島	53	獅子岩城	下名川
18	渡戸遺跡	天童	54	岡村遺跡	下名川
19	村松遺跡	白山	55	土崎遺跡	酒田南部、余目
20	落合遺跡	延沢	56	梵天塚遺跡	鶴北郡、羽黒山
21	元木遺跡	延沢	57	中谷地遺跡	鶴北郡、羽黒山
22	黒木沢A遺跡	谷地	58	三条遺跡	寒河江
23	細越遺跡	玉庭	59	高松2遺跡	左沢、寒河江
24	天王原遺跡	鶴岡	60	高松3遺跡	左沢、寒河江
25	塔の腰遺跡	鶴岡	61	平野山古窯跡群第12地点	左沢
26	坂野下遺跡	山五十川、下名川	62	鷺鷹山遺跡	左沢
27	荒川遺跡	米沢北部	63	富山遺跡	左沢
28	左沢2遺跡	米沢北部	64	石ころ遺跡	山形南部
29	上荒谷遺跡	山寺	65	上谷地c遺跡	簾野目、米沢東部
30	落衣長者屋敷遺跡	寒河江	66	亀ヶ崎城	酒田南部
31	西原C遺跡	富並、谷地	67	日本国遺跡	鶴岡
32	堂の前遺跡	樋岡	68	渋作遺跡	赤湯、簾野目
33	三滝遺跡	差首鍋、及位	69	下柳A遺跡	山形北部
34	三滝2遺跡	差首鍋、及位	70	田代水上遺跡	海味
35	三滝3遺跡	差首鍋、及位	71	熊野塘遺跡	海味、左沢
36	大滝上野	及位			

地図名：国土地理院発行（2万5千分の1）

山形県埋蔵文化財調査報告書195集
分 布 調 査 報 告 書 (22)

平成6年度以降農林・土木事業他関係遺跡

東北横断自動車道酒田線関係遺跡他

平成7年3月29日 印刷

平成7年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
